

発刊から今日まで

田中泰彦

「京の町並」の刊行を企画したのは昭和四十五年のはじめでした。この写真集を編集するのによいアイデアを与えていただいた人はいまは故人となりました旧二条の伊藤書店の伊藤三郎さんでした。昭和三十三年京を語る会刊の「なつかしい京都」のページを開いて、「この写真集は古い京都を知る上に貴重な本ですが、これに現在の

らきつとよい本になるでしょう」と話してくれました。幸い手許には昭和五年郷土趣味社刊の「京の面影」があり、明治と昭和初期の京都を比較した写真が二十数点ありましたが、神社や橋の変遷が主で町並の変遷が少なくて困りました。ちょうどこのころ京都の古書店で明治の珍しい写真も手に入れることができました。友人・知人の協力・新聞社テレビ局をはじめマスコミ関係者の協力もありました。特に年代の記入されていない写真の時代考証には全力をあげて京を語る会の石川実・井上豊治・松田元氏の協力を得ました。チラシを作るときにはだれにでも親しまれている祇園石段下の移り変わりを取りあげ、明治初期・後期・昭和初期・昭和の現在（四十七年）

四枚を見本にのせチラシだけでも自分の手許に残したくなるように気配りして作りました。特に古い写真の復元には何度も何度もやりました。現在この写真集から簡単に複写して引き伸ばしても十分見られるりっぱなものです。その後この写真集は京都市電の記念乗車券をはじめ新聞社・テレビ局をはじめ会社・銀行の記念誌などに十二分に利用されました。復元利用これほど多様に利用された本も珍しいことです。しかしながら、この写真集は、いとも簡単に無断で二十数枚が盗用されました。角川書店発行の「角川地名大辞典26京都府」発行者角川春樹、責任編輯（角田文衛・上島有・足利健亮上・下二冊（昭和五十七年））です。書面を通じて抗議しますと、それに対して「あなたの解説したのは、一種の発明でこれは誰が使っても自由です」という意味の返事がきただけです。みなさんはいかがお考えになりますか。その後は何の連絡もありません。わたしはあらゆる機会に、このマチガイを正すキャンペーンを続けたいと思います。

季刊
第 25 号
京都古書研究会
発行
〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同
組合内
振替 京都 2 2 1 3 2
年間購送料 5 0 0 円
(送料込)
頒 価 1 5 0 円

ちょうどこのころから、京都新聞刊「京のご利益さん」の取材のためにある神社や寺院を尋ね歩きにきました。京のお宮とお寺のご利益と信仰にまつわる貴重な本で、京都新聞社の加登藤信さんのすばらしい写真と共に今年の秋には書店でお目にかかれると思います。

全国の消え行く民俗と郷土玩具をいち早く発掘した貴重な民俗資料の宝庫・幻の雑誌「郷土趣味」(全五十五号)(大正七年創刊)二千四百バーゾ予価二万八千円が岩崎美術社から完全複製されます。主な内容は宝船・絵馬・郷土玩具・民謡研究・性神崇拜など。特輯号雷神研究・秋田風俗問答巻(中山太郎)・大和習俗百話(高田十郎)・奥羽土俗めぐり・阿波の話(田中緑紅)ほか竹内勝太郎・明石染人の寄稿があります。

筆者紹介

田中泰彦（たなかやすひこ）

立命館大学専門部国文学卒業
京を語る会会長
主な著書 編書

「京の町並」「京都慕情」「花
洛名所図会版画集」「近世京都
の珍しい古地図七種」「京のお
地蔵さん」「五条大橋」「思い
出のプログラム」(新京極編)

「京の怪談と七不思議」

古書のご整理は 京都古書研究会加盟店

赤尾 照文堂 電話二一五八
 石川 古本 店 電話七一五〇、七二五五
 井上 書 店 電話二二〇一
 キュオ才書 店 電話二二六六
 其 中 堂 電話二二九七
 沢 田 書 店 電話五〇三三
 三密 堂 書 店 電話三六六六
 シルヴァン書 房 電話三六六六
 (株)善 書 堂 電話三六六六
 大 書 堂 電話三六六六
 竹 網 書 店 電話三六六六
 谷 方 書 店 電話三六六六
 東 山 書 房 電話三六六六
 萩 田 屋 書 店 電話三六六六
 福 井 文 政 堂 電話三六六六
 藤 原 北 御 所 書 房 電話三六六六
 文 庫 堂 電話三六六六
 文 藻 堂 電話三六六六
 八木書店古書部 電話三六六六
 山崎 書 店 電話三六六六
 (株)臨川書店大坂店 電話三六六六

北山さんのこと

—— 本を愛した人 ——

奥村 三 舟

北山さんが亡くなってからちょうど三ヶ月になる。一月三十一日の午前六時であった。うとうとしていた私は、妻の声で目を覚めた。「あなた、北山さんが亡くなりましたよ。」

妻は床の中でスタンドのあかりで朝刊を読んでいた。妻の手から奪うように新聞を手にとると、三面に目を走らせた。ふつう下の方にある訃報欄ではなく、上の方に、「古代史研究のパイオニア」として、写真入りで、北山茂夫さんが前日、一月三十日の午前十時心筋こうそくで亡くなったことが報せられている。私は茫然とした。

半月ほど前に貰った北山さんからの便りでは、どこも悪いところはなく、最近書き上げた本の、最後の仕上げに精を出していた。私には新聞の記事が信じられなかった。

二三日前から雪が降り続けているが、私の住む下鴨にくらべて、北山さんの家のある修学院は雪は深い。転ばぬように気をつけながらやっとたどり着く。北山さんの遺骸は階下の客間に安置されてあ

った。

「顔を見てやって下さい。」と奥さんはいわれて、顔上の白布をとられる。坐っているところから見る故人の横顔は、安らかに眠っているように見えた。

奥さんの話では、北山さんは、昨日の朝いつものように八時頃二階の書斎に入ったが、十時過ぎに奥さんが書斎に入った時には机に向って意識がなかった。死は一瞬の出来事ではどこす術がなかったという。

翌日の二月一日、故人の意志で、仏式でも神式でもない、簡素な、しかし盛大な告別式が行われた。同じ日故人が最後まで手を入れた完成したばかりの著書、「万葉とその世紀」の原稿が出版社の人に手渡された。

北山さんとのつきあいは、北山さんが昭和二十五年立命館大学法学部に來られて私の同僚となつてからだから、三十四年になる。北山さんが学園紛争に愛想をつかして立命館大学を退職され、文筆一本の生活に入られてからも、このつきあいは続いていた。私の方か

らお訪ねして、北山さんの清閑をさまたげることは稀であったが、ここ数年文通していた。北山さんからのたよりは、きまぷて端書で、墨書されていた。私には字の巧拙は分らない。しかしいかにも素朴で気取らない文字で、思いつくままに走り書きされたものらしい。

この端書はほとんど三日にあげず私の手元に届いた。それを読めば、北山さんの生活振り、執筆の進み具合、読書の感想などは、手にとるように分った。

史家北山茂夫の内面生活をうかがわせるものとして、この数十枚の葉書は、荷風の断腸亭日乗に匹敵するものではなからうか。もとよりこれらの端書は、荷風の文章のように彫琢されたものではない。しかしそれだけに、書いた人の、ありのままの、かざらない素顔をうかがわせる。私は、この端書の大部分を、故人のおもいでにもと思い、奥さんに送った。しかしその幾枚かはまだ私の手元に残っている。

その端書によれば、北山さんの毎日の生活は次のようになる。午前七時起床。八時に書斎に入つて正午まで執筆。これを北山さんは「授業」といつている。午後はバスで銀閣寺まで行つて、帰りを家まで三キロの道を歩く。夜は、四五年前から始めたドイツ語の勉強——これは勉強というより北山さんのほとんど唯一の楽しみらしい

が——をする。しかし原稿の仕事が急ぐ時には、執筆は夜にも及ぶことがある。このほかに一日百回の木刀の素振りをする。北山さんは、この日課を厳重に守つて崩すことがなかった。

常人がこれを聞いたら、さぞかし窮屈な、単調な生活で、耐え難いものと感じるだろう。しかしストイックな北山さんにとつては、この生活はもつとも心に適った快適なものであった。北山さんにとつては、原稿の執筆は一面苦しい作業ではあったが、やり甲斐のあるものであった。夜のドイツ語の勉強は、昼の、ばう大な史料を駆使しなければならぬ、細心を要する仕事に対してよい気分転換であつた。

そしてこの生活のなかから、つぎつぎに、ちくま少年図書館の「日本の歴史」、「万葉群像」(岩波新書)、「柿本人麻呂論」(岩波書店)、「万葉とその世紀」(新潮社、近刊)など、過去十年間に十冊あまりの著書が生れたのであった。そしてもし天が北山さんに齢をかしたならば、さらに、著者のほじめての通史であり、又著者が若い人々に読んで貰うことを喜んでいた「日本の歴史」全六巻(そのうち二巻出版)が完成し、さらに永い間構想を立てていられた「日本の反乱」などが書かれたであろう。

七十四歳の享年は短かいとはいえないかもしれない。しかし北山

さんは、その仕事に対する意欲と愛着の点では、一番油の乗つている時期にあり、まだまだ立派な仕事の出来る状態にあった。私は北山さんの死から、何か戦いの最中に倒れた戦士を想わせる壮烈な感じを受けたいではない。

しかし一面北山さんの死が、ほとんど苦しみもなく、又充実した精神を失わせることもなく訪れたものであったことを、せめてもの慰めにしたい。北山さんは、先年碩学斎藤勇博士がその孫の凶刃に倒れたニュースが伝えられた時、次のような感想を私に伝えている。

「いつ身辺に何がおこるか分らぬ。勇長老は九十五才にして孫の毒手に命を失うとは、百年の光芒も凶刃のきらめきに失われるとは、何たることであろう。(中略)あゝ、平凡にいのちつき死にたいと思う。それまでは耐えて生きねばならぬ。」

北山さんが執筆の余暇に読んだのは、主としてドイツの書物であり、その中には、ゲーテ、トマス・マン、カロッツァ、リルケ、カフカ、ヘッセなどが含まれているが、とくにヘッセの小説と詩は北山さんの愛読するものであった。しかし北山さんは、明治・大正・昭和の日本文字にも強い興味を持っており、又博く読んでいた。もともと文学志望だったのである。三高へは英文学を専攻しようとして、文甲に入った。そこで山本修二、

深瀬基寛、安藤勝一郎などの先生に、シェイクスピアやハーディを教わり、英文学への理解を深めた。端書の中に、「『英文学は見たてぬ夢なり』ということばがある。

この英文学への親近は後年まで続いた。イギリス文学、とくに詩には強い関心を持っていたが、数年前から、三高時代に学んだドイツ語を、テレビやラジオの助けをかりて、あらためて習い直した。これには三高の時、雪山、重松というような先生の教えを受けたのが役に立った。

北山さんは日本文学も広く読んでいたが、いちばん敬服していたのは夏目漱石であつたようである。私への端書の一葉には次のような感想が記されている。

「本が好きであれこれと買い、その何十分、何百分の一かをいそぎよみ、精神のカテとす。その五十年。このなかに名著とよばれるもの幾冊ありや。明治、大正文学のその初版本もいくらか集めたが、名作として後世にのこるものいくばくぞや、淋しき限りなり。

茂吉のごときも十七冊の歌集を出したが、秀歌よりも駄作多し。マナリズムのゆえなり。『赤光』において然り。鵬外にも傑作は乏しい。漱石のみは生々展開す。大作家なる所以。かれとならぶものついになし。人格また高潔にして平民的なり。」

北山さんは愛書家であると同時に

に愛妻家であつた。北山夫人は素(もと)といわれ、永らく高等学校で教鞭を取っていた。英語をよくし、とくに歴史小説家サトクリッフの作品はほとんどすべて読破しておられ、その二三については翻訳に手を染めておられる。

又夫人は謡曲仕舞に親しんでおられ、シテとして能舞台に立たれるほどの名手である。この夫人が、

北山さんの仕事に、有形無形の力となつたことはいうまでもない。夫人はしばしば北山さんの著書の校正に当られ、又北山さんは「一読者として」の夫人の意見に従つて、文章の表現に手を加えられることもあつたようである。

北山さんが、少し家から遠く外出される時はいつも夫人同伴であつた。めざすところは鞍馬、曼珠院などもあつたが、多くは新古の書店であつた。北山さんが、少し多く本を買われると、たまには夫人が、「あなた、そんなに読めるのですか。」とからかわれることもあつたが、北山さんは、「きつといつかは読む。」と力強い、返されるのであつた。

北山さんの学問的な業績の意義やその史学界に於いて占める位置については、私より適任の方が述べられるであろう。ただ一読者としての感想を述べるとすれば、北山さんの著書は、博大な学識と周到な準備に裏付けられており、極めて明快で、歯切れのよい、一種独

特の格調のある文章で綴られていて、爽かな読後感を与える。それが岩波書店その他の出版社に絶大な信用があつた所以であろう。

北山さんの人柄について述べる紙幅が少なくなつて来た。北山さん

北山先生の初期の著書 『奈良朝の政治と民衆』



の日常は、少しも辺幅をかざることなく、簡素な生活振りであつた。底にはげしい情熱をひそめていながら、人に接する時はきわめて穏かで、人なつこいところがあつた。これが執筆のためほとんど社交的生活と絶縁していた理由で、多くの良友に恵まれていた理由であらう。時流に投じて、大衆に迎へて物を書くような態度は、北

山さんのもつとも忌み嫌うものであつた。これは小説家にも及び、中にはいま時めいている或る作家は、その多作、とくに北山さんの専門分野での考証の不十分さなどから、北山さんは手に取るうとしなかつた。

この北山さんの人柄は多くのファンを作り、北山さんの著書ならことごとく読んでいという人々も多かつた。数年前北山さんが、仙台市の歴史学者や歌人などに招待され、多賀城址を訪れ、大伴家持が多賀城で没したことを強調された講演をした折も、北山さんの人柄と熱心な講義振りは、地元の人々に好感をもつて迎えられるやうである。

北山さんは師弟愛が強く、恩師の羽仁五郎氏の亡くなられた折も、たゞちに横須賀の羽仁宅に赴き、遺体を拝しており、その直後「朝日ジャーナル」に長文の、心をこめた追悼記を書いている。

又二年前旧制田辺中学校の卒業生約四十名が京都に来て「北山茂夫先生の授業を受ける会」を開いた折も、休憩なしで約三時間にわたつて、自己の歴史観、教育信条その他について、充実した「授業」を行つて、参加者に深い感銘を与えた。この会のことば、北山さん自身も非常に喜んで、私に報じて来た。

北山さんの一生を考える時に私の頭に浮んで来る一篇の詩がある。

ロバート・ブラウニングの詩に、「ある文法学者の葬式」(A Grammarian's Funeral)というのがあつた。文芸復興期の初めに、ギリシヤの古典の研究に打ち込み、あらゆる世俗の栄華や慰楽を拒んで学問一筋に生きた一人の学者の死をいたむ人々が、その遺骸をさびしく聳える山の頂上に横ぎ上げる有様を歌つたものである。しかしその学者にも等しい禁欲的な学究生活を送つた北山さんの遺骨は氣候穏かな南海、和歌山県の父祖の墓地に眠ることになるであらう。その墓地を訪ねた折の北山さんの端書を写して、この拙い追悼文の結びとする。

「亡父、亡母の法要でサクラ満開の紀州に帰る。七回忌の母の墓を建て、碑文は小生の筆、丘の上に北山家の墓地、そこに四基ならぶ、

翌日、海草郡下津の亡母の生家を弟と訪ね、展覧、甥の車にて、紀州徳川家のボダイ寺、長保寺にゆく。大門、多宝塔、地藏堂は鎌倉のもの、国宝なり。どこもサクラ。」
(立命館大学名誉教授)



顛 想 (五)

徒然草を読むとはどういうことか

兼好自己体験文段の

事態構成について(2)――

雙 岡 散 史

心なしと見ゆる者もよき一言はいふものなり。ある荒夷の恐しげなるが、かたへにあひて「御子はおはすや」と問ひしに「一人もち待らず」と答へしかば「さてはものあはれは知り給はじ。情なき御心にぞものし給ふらんと」と恐し。子故にこそ万のあはれは思ひ知らるれ」と言ひたりし。さもありぬべき事なり。恩愛の道ならでは、かかる者の心に慈悲ありなんや。孝養の心なき者も子もちてこそ親の志は思ひ知るなれ。

世を捨てたる人の万にするすみなるが、なべて、ほだし多かる人の万に詭ひ望み深きを見て思ひくたすは僻事なり。その人の心になりて思へば、まことに悲しからん親のため妻のために、恥をも忘れ盗みもしつべき事なり。されば盗人を縛め、僻事をのみ罪せんよりは、世の人の饑えず寒からぬやうに世をば行はまほしきなり。人、恒の産なき時は恒の心なし。人窮まりて盗みす。世治らずして凍餒の苦しみあらば科の者絶ゆべからず。人を苦しめ法を犯さしめ

てそれを罪なはん事、不便のわざなり。

さていかかして人を患むべきとならば、上の奢り費す所を止め、民を撫で、農を勤めば、下に利あらん事、疑ひあるべからず。衣食よの常なる上に僻事せん人をぞ、まことの盗人とは言ふべき。(第一四二段)

この文段の評として橋純一氏は「この段の初節は前段の思想から假設した話であらう。後節の経世論は、殆んど全く孟子の説の受亮で、特に兼好の特色を見るに足りない。」と云われる。「假説」は虚構すなわち造り事であらう。私が副題にか、げた「自己体験文段」とは真向から衝突する見解である。「孟子の説の受亮」も兼好を軽くあしらい何か小馬鹿にしたような態度がうかがわれる。果してそれでよいのであろうか。

扱、私は前稿で兼好の「京人」的立場をかなり強調し事態の人間関係を兼好・堯蓮・東人の三者による鼎談と推定した。然し三者鼎

談と云い得る為には兼好の言動は何ら表現されていない所から私説に奇異を感じられた方があるかも知れない。然し私は次にかける古文書の読解から一四一段とこれに附随して書かれた一四二段とは同一事態に生じた局面の展開に相違なからうと考える。

左辨官下、能登国
応令士卒、民庶當時知行地不可
有依違事

右大納言藤原朝臣宣房宣奉勅兵革之後士卒民庶未安堵仍降絲綸被救龍而萬機事繁施行有煩加之諸國之輩不論遠近悉以京上徒妨農業之条還背撫民之義自今以後所被聞此法也然而高時法師党類以下朝敵與同輩之外當時知行之地不可有依違之由宜仰五畿七道諸國卿勿違失但於臨時動斷者非此限者國宜承知依宣行之
元弘三年七月二十三日
大史小槻宿禰
少辨藤原朝臣

この古文書は「大日本史料・元弘三年七月二十三日」の条下に「諸国二詔シテ士民ノ業ヲ含テ・闕下ニ聚訟スルコトヲ停メ北条氏ノ党与ヲ除ク外、領士所ノ田邑ハ一二故ノ如クナラシメ給フ」と説明されたもので同一文面の主旨は「能登国」のほか信濃・伊予・陸前等諸国のものもあるという。これで見ると建武新政はそもその出発

点からして大混乱に見舞われていた事が確認される。やがて「雑訴決断所」と名づけた司法機関も設置れ兼好の主君堀川大納言具親もその要人の一人として裁断の座にすわることとなった。

私は前稿で上洛して来た東人の目的は所領安堵のためではなかったらうかとそれを匂わせてはおいだ。今この「總持寺文書」によって、そのように推断して大過なからうかと一つの推定を試みてみたい。堯蓮が兼好を頼つたのも恐らくは兼好と具親の主従関係を念頭にしたからのことであらう。上洛目的が所領問題であつたらうことは確かだと信ずる。文書には「兵革之後」とあるがこれが元弘動乱直後であることは、文書の日付が明らかに示している。鎌倉幕府が崩壊して後醍醐天皇が配流地隠岐から都へ還幸されたのは「六月五日」のことであるから古文書の日付に照せば、津波の如く押しよせた上洛騒動は此の間僅か一月半ぐらいの短期間のことになるのだ。それにもうこのような宣言が下されねばならなかった。「二条河原落書」はこの混乱現象を「文書人タル細葛」と諷刺した。兼好の自己体験もこの情勢下のこととして推定される。なるほど「士卒民庶」といって所領というものが如何に文字通り「一所懸命の地」であるかを一片の文書は之を如実に物語るものでなくてはならぬ。そして文書

に「士」とあるのは前段の「東人」のような領主階級の武士であり、「卒」とあるのは後段の「荒夷」の如きを指していると押えてよからう。前段の東人・後段の荒夷、此の主従は眷族をヒックルメテ運命を共にする。彼らは「一蓮託生」なのだ。一所懸命と一蓮託生と。兼好は時代の浪に吞まれ行く人間の悲劇を犀利なりアリストの眼と澄明なモラリストの眼でよく捉えている。それが一四一・一四二の両段の執筆を發想せしめた要因だと私は考えた。この両段は各個に読んだのでは徒然草を味読する所以にはならない。是非とも同一事態のこと、して読むべきだ。

郷党堯蓮を頼み、その堯蓮は兼好に頼み込んだ。そして事(所領安堵)は不首尾に終った。これをより具体的に云えば雑訴決断所は此の主従に対して安堵を与えてはくれなかった。そう解釈せざるを得ない所だ。さもなければ前段における領主の憤懣なる方なき気持も不条理な彼の京人兼好への非難も後段の荒夷の詰問も理解すべくもない。私はやはり徒然草の末意からして兼好の筆意はそこにあると思う。堯蓮は東人の京人批判を逆手にとって彼の不条理性を批判した。批判された東人はさておくとしてそれでおさまらぬ者が同席していた。東人の家来、即ち第一四二段の「荒夷」だ。同席とは云え彼は主人から一段下った所で鼎

談の成り行きを聴聞していたのに相違ない。感情がたかぶったのは主人と同じだ。主従の関係は一連託生だからである。悲運を知って彼は郷里にのこして来た子供を思いうかべた。そこで彼は思はず膝を進めてつめよった。「御子はおはすや」開口一番「かたへ」になぜつけるように発したのが此の問いである。私はこの唐突な問い方自体にも相手を法師と見据えての発想がよく効いているように思われる。兼好はたまたまその場に居あわせた第三者的な立場ではない。荒夷の血相は変っていたにちがいない。兼好は恐ろしいと感じたから、それを「恐ろしげなる」と書いたのに相違ないと思う。「荒夷」とだけでも兼好の印象には恐ろしさがあったはずだ。彼はそれに「恐ろしげなるが」とた、みかけた表現をしている。これは何を示唆することになるのか。

私は両段の事態構成を大体以上のように考えて大過なかなろうと思う。この「かたへ」はどうしても他ならぬこれを筆にしている兼好その人でなければならぬまいと考える。甚だお、ざっぱな事態構成ではあるが問題の核心には触れたつもりである。如何に語句の注解が詳細であつてもこの問題は無視できない。何となれば、それでは文学として徒然草が読めているとは評し難いからだ。橘説は先にも少し触れたようにこれを多分に儒教倫

倫のためのフィクションだと考えているが、私には氏説がとんでもない皮相のみに思われる。この「かたへ」は平板に「傍輩」と訳してすまざる問題ではない。傍輩の傍では確かに「かたへ」であるがそれは封建体制下の身分関係の自覚がなさ過ぎることになりはしないだろうか。本文にも圈点で注意を促しておいたが荒夷は明らかに、この相手（兼好）に対し敬意を払った言葉遣いをしているその点をもう一度確認する必要があるのではないだろうか。私は先に「鼎談」の語をつかう時から既に兼好堯運そして東人を同列の人間関係にとらえている。荒夷は東人を主人と仰ぐ己の立場を自覚しており、ひいては兼好に対しても自分より一段目上の人とする故に言葉遣いに敬意を崩してはいないのだ。それを傍輩と解したのではこの両段からの事態構成などおぼつかないとする考える。この私見は間違っているのだろうか。「かたへ」の語については第五二段にも見えている。そこでは或は仲間僧であつてよからうが第一四二段の場合にはニュアンスに些か異質なものを感じ、そう解したのでは徒然草の読みを深める所以とはならない。兼好は初めから荒夷を「心なしと見ゆる者」とか「かゝる者」とか自分よりは一段低く見ていることは確かであり、この点、橘氏も西尾・安良岡氏も些か平板な解釈に安住

しているのではないか。それが私にはどうもあきたりない。そのためかあらぬか氏らの説には事態構成は全く問題となっていない。それでは徒然草を読んだことにならぬのではないか。

文書にもどう。「罕」の字は見られない字であるが「罕」と同義である。従つて「罕籠」は「罕籠」と同じ意味である。他人を己の術中におとし入れてその自由を奪うことだ。為政に民を罕籠すれば暴政ということになる。これについて私が下手な説明をするまでもない。兼好は第一二段で巧妙な比喩で失政を諷刺している。

兼ひ飼ふものには馬牛。繋ぎ苦しむるこそいたましけれど、なくてはかなぬものなればいかゞはせん（中略）走る獣は檻にこめ鎖をさゝれ、飛ぶ鳥は翅を切り籠に入られて雲を恋ひ野山を思ふ愁止む時なし。その思ひ我が身にあたつて忍び難くは心あらん人これを喜ばしむるは榮村が心なり。王子猷が鳥を愛せし林に樂しむを見て逍遙の友としき。捕へ苦しめたるにあらず。凡そ「珍らしき禽あやしき獸、国に育はず」とこそ文にも待るなれ。

徒然草を読むのには徒然草を以てするのが最上の方法であると思うのだが、そのためには来意の探

求が決定的な要件となるはずである。来意については既に江戸期の盤斎によつて指適されている。来意が必ずしも万全であるなど云つていのではない。そこには自ら「盤斎次元」という制約もある。しかしそれは必ずしも徒然草研究史に正当性を定着せしめるに至つては居ないようである。口にこそ「来意」を強調する人が必ずしも「盤斎次元」を超えているかどうか問題なきを得ない。さういふ兼好は独異な知性の勝つた人である。「ことばの外のはれ」も余情と共に余意を押えねば彼の諷意の所在は把握できないのではないかと常々思っている。

総持寺文書はレッキとした第一級史料であり、これを援用したからとて想像や臆測でものを考えたわけではない。私はこの文書を介して「盤斎次元」を超えた来意の存在を追求したわけである。もつとも此の辺に所謂「見解の相違」といふものが生じるのかも知れないが見解の相違を以て独善に安住しては学問研究の進歩向上はない。

最初の予定では文証として提出した「総持寺文書」が徒然草の内部徴証に語りかけている「士卒民庶・當時知行地・萬機事繁・諸國之輩・京上・徒坊農業・背撫民之義」等々の諸語を「元弘三年六月二三日以降」の情勢にからませながら第一四一・一四二段の兼好自

己体験の事態を建武新政下の時点に推定するつもりであったが、客観的史料によるこの問題提起は唯その史料を紹介するだけがヤツトのことになつてしまつた。

唯成立説に「元弘動乱の前後」を力説する論者に対しこういう考え方も可能ではないかを指摘したまでの事だ。私は徒然草の中にその執筆を動乱以後と考えるを得ない文段の多いことを指摘して来た。今、一四一・一四二両文段・一二一段も亦、既成の成立説に対しては意外に大きな盲点を示唆していることになりかねないのであるまいかと考える次第である。

安良岡氏は大著「徒然草全注釈」で私説を批判し「橘説を否定して成立年代をもつと引き下げるにはなぜ『徒然草』が南北朝の内乱に全く筆を及ぼしていないかを單なる想像や臆測ではなくして確実に説明しなくてはならないであらう」とし更に語を續けては「私は白説に固執する気持は全然なくむしろその完全なる否定が成り立つものならば、いつでもいさぎよく撤回したいと思ひまたそれこそ学問の進歩であるとも思つてゐるのであるがしかし現在のところ私は白説にもとづいて研究を進めるほかはないのである」と自らの良心的立場を強調された。所で橘氏は徒然草について

「一篇を通じて元弘の乱以後における不穏な世相を反映した趣が

京都古書研究会会員

店と人

シリーズ

第四回 烏丸・今出川・一乗寺

もうおなじみとなりました「店と人」シリーズ。今回は、第一回で紹介した百万遍近辺以外の北部地区の会員を御紹介していきます。

沢田書店 沢田英弥(36才)

烏丸今出川より少し北、同志社大学の向い側にあるのが沢田書店。近年ますますファッショナブルになつていく同大生の行き交う学生街の古本屋さんです。六十年からの歴史のある店の隣が開店したてのTVゲーム屋だつたりするもの

時代の流れとでもいうのでしょうか。

ショウウィンド一面には全集ものが顔をみせ、その前の歩道には均一台。南側にある入口をはいると左の壁面に、教科書と参考書、

主に文科系の経営、経済、法字書がぎっしりつまっています。同志社前の古本屋としては当然ですが、売りにくるのも買いにくるのも同大生が殆ど。三月の卒業シーズンと四月の新学期が一番多忙になるそうです。この卒業生と新入生の絆をつなげる場として六十年間もの役をはたしつづけているわけ

です。広い店内には、教科書外では文庫や新書、一般教養書、その他、学生の読むような本なら揃っています。(とはいえ、マンガ本はありません。)また、同志社ならではのキリスト教関係の神学書もあります。

現在は英弥さんと父親の英民さんとで経営しておられます。お話によると、最近では教科書は皆きつちり買にくるけれども、参考書を買ってまで深く勉強をしよう



という熱心な学生の姿が減ってきたそうです。何事にもソツない学生気質とでもいうのでしょうか。

営業時間は朝十時半から夜八時まで。定休日は日曜・祝日。

大学の勉強というものは、学内の講義だけでなく、こういう所で

萩書房 井上賢次(25才)

すっかり市民の足として定着している地下鉄烏丸線の鞍馬口駅から南へ数十歩、通りの西側に萩書房があります。二年ほど前にきれいに改装された店内には、小説や文庫などの一般書、それに棚一面とその上、天井までを占めるマンガ本がならべられています。このあたりは、南に同志社大学、北に大谷大学、さらにその北に京都産

(前頁より)
見られない」とも記す。これが受売りかどうかは別として、安良岡氏の口吻は橋説を踏襲したものとして私は記憶に止めておこう。「願想」はもとより難解な未定稿にほかならない。先学への非礼を多謝し古書研の好意に多謝し一応の欄筆とする。(六月十二日稿)

(附記) 徒然草の研究は今や完全に引き詰まっている。この行き詰りは根本問題たる成立論が錯謬を重ね混迷に陥っているからだと考えざるをえない。私は近く発刊の個人研究誌『願想』によって、私説の実証的成果を世に問いたく念願している。研究に志向を同じうする大方所見の御批正をうれば幸甚に思うものである。

業大学をひかえた学生の町で、店に来るお客さんも学生さんが多く、そのことは教科書類も置かれてい

ることからもわかるのですが、萩書房さんの気軽に入れる雰囲気を受けているようです。また、店にある本なら、他のどこよりも安い値がついてあるという井上さんの言葉も、お客さんには大きな魅力

です。井上さんは三代目にあたり、学生



いつも笑顔の井上さん

打って走って守れる好選手として毎年大活躍。趣味は山歩き、それとテニス。自然が大好きな井上さん、暇をみつければ車をとばして山を見に出かけるそうです。

営業時間は毎朝十時から夜九時まで、休みはなし。夕食後、散歩がてらのお客さんもお待ちしています。

それから、近鉄などでの即売会にも力をいれておられ、店売りとは違う系統の本を扱っておられます。これからは、趣味関係の雑誌(映画やスポーツ等)などに力を注いでいきたい、との話でした。

申し遅れましたが賢次さんはまだ独身。自然の大好きな女性が好ましいタイプとか。兄貴分の井上道雄さんも結婚されたことだし、いい人がみつかるといいですね。

善書堂

竹山勝(38才)

河原町今出川の北東の角、富士銀行から少し北に善書堂があります。このあたりは出町商店街で、

アーケードが新装され、賑やかな街並みです。

赤レンガ風の正面の入口の上には、「本専門・質入・質受・善書堂」と堂々とした字。本の質入ができる本屋というのは戦前にはたくさんありましたが、現在ではここ一件になつてしまったそうです。今も利用客はあるそうですが、他の金融機関が発達してきたため、かつてのようなことはないそうです。

店内にはいつてまずその深い奥行きに圧倒されます。均一台の本を立ち読みしながら歩いていったら、カウンターにつくまでに読み了つてしまふ、といったらオーバーですけれど。

さて専門は、と尋いてみたところ、返事は「別になし」。つまり古書といわれるもののジャンルすべてがあるのです。入口左には豪華



働き盛りの竹山さん



本のショーケースがあり、三本ある通路のうち、北には美術、趣味、それに英仏独の文学、哲学の原書、中には歴史、宗教、哲学。南には文学、文芸、そして教科書類に文庫本。全集ものはカウンターの後ろと、棚の上。まさに古書のデパートの観があります。

これだけのものがよく集められているものだ、と感心して訊いてみると、これがみんな店買いだということでした。本の間口をひろげていい商品を置いておけば、自ずとという本を持ってお客さんがやってくるというわけなのです。本の買い方にしても誠実に一冊一冊の値段を電卓に打ちこんでお客さんに示される。こういう信頼関係が、棚いっぱいの本をよんでくるのです。

勝さんは働き盛りの三十代。趣味は、店番をしていることかな、

とためらいなく言われるのには、脱帽の感あり。お子さんはお一人。営業時間は、朝十時半から夜七時まで。定休日は七・十七・二十七日と七のつく日。これは質屋組合の指定によって七の質の日が定休になっています。

石川古本店

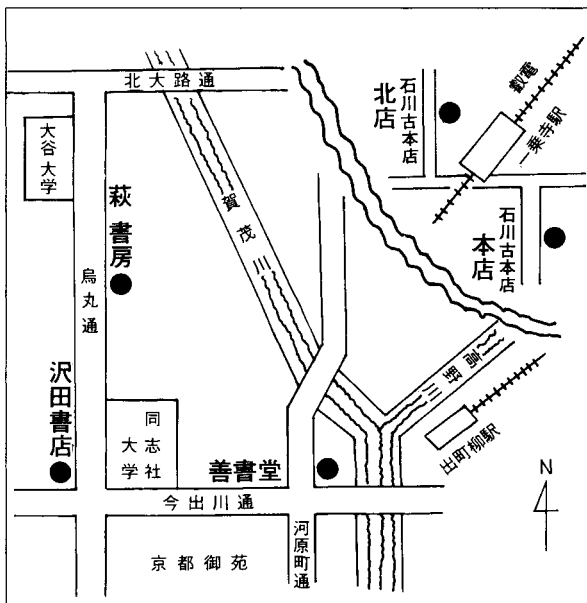
石川栄基(35才)

京福電鉄叡山線の一乗寺駅をはさんで二軒の店を持つ石川古本店。南にある本店はマンガ専門の古書店で、マンガファン、アニメファンにはつとに有名です。県外からのお客さんも絶えずあるそうです。

今回お邪魔したのは、去年開店したばかりの北店。一乗寺商店街を駅から西へ二筋目を北へはいっていくと右手にあります。作りつけの木製の本棚には、マンガの他に一般書が揃えられています。

特色は映画関係。通路にはパンフレットはぶらさがっているし、奥の壁は前売券の半券で飾られています。パンフレットやチラシなどは古いものから新しいものまであり、京都一といえるでしょう。それから売出し中の京都コーナーもかなりの棚をさいて置かれていまして、竹久夢二のもの、版画などもあります。

他には文庫本、新書本、小説、教養書などの一般書がありますが、「凝った雑本屋」を自称される位に、面白そうな本がならんでいます。



ヒゲがよく似合う石川さん

石川さんは大のマンガ好きで、昔からコレクションしていて、そのうちそれが嵩じて本屋を開いた

という凄い人。映画も好きで、パンフレットも蒐集しておられたそうです。興味のある本を扱っているという点では、夢二や版画もそうですね。こうやってみていくとみんなヴィジュアルなものばかり、視覚にスツとはいってくるものが根っから好きなんだそうです。

営業時間は昼一時から夜九時まで。本店は夕方六時まで。定休日は毎週日曜日。月に一回(第一月曜)の割引サービスデーなどの企画も多数あります。是非一度来店下さい。(尚、防犯カメラが設置されているので、不届者は御遠慮下さい)

古書研だより

大盛況「春の古本大即売会」

古書研究会の新しい催しとして企画された「春の古本大即売会」が、去る五月二日より四日間、岡崎公園内京都市勧業にて開催された。秋の古本まつりに対し、こちらは春の古本まつりといったところ。折りから同じ会場内では京都花卉(き)連合会が「花と緑のフェア」を開催。そこで即売会の方も花と緑の特別コーナーを設け、どちらのお客様も往来できるような会場に設計された。

初めての催しに出入りが心配されたが、ゴールデンウィークに天気も上々。テニスコートが十面以上もとれるという大会場も人息れでムンムンするほどの人出に、どの店も應對に悲鳴をあげるほど。即売会場はまん中に入大通りから走り、二軒の会員店舗が両側に軒をつらねる。秋が「古本村」ならこちらはさしずめ「古本街」といった風。大通りのところどころに置いてある緋毛氈の床机もありがたい。会場入口の児童書コーナーも、奥に設けた当会の催しならではの人札コーナーや京都コーナーも人気があった。

一方当研究会の日頃の勉強の成果をまとめて「本を大切にしよう展」も同時に開催。このような展

覧会は「昨年の「京都ガイドブック



〈大盛況の古本即売会〉

「子ども文化展」につづく三回目の試み。本の害をその原因

山崎書店 京大北へ店舗を移転

前号で紹介した山崎書店が、店舗を伏見より京大北に移転。東大路を京福電鉄叡山線が交叉するところを少し北へ、東側(下図)。

美術書、美術資料を中心に品揃も豊富。京都では初のワープロによる古書目録を昨月発行して大張切り。

ちようど福田屋書店より北二〇〇米にあり、銀閣寺、百万境界わ

別に分類し、その実物を展示して警告。そしてその予防法や害にあった本の修理の仕方などもパネルで表示した。

さらに「本を大切にしよう」という百人一首をもじった双六や、菜を来場の皆さんに配って本の大切さをアピールした。

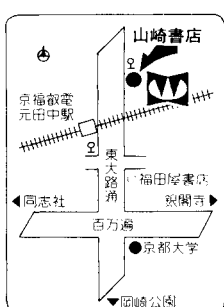
古書研究会 新陣容決まる

古書研究会が結成されて早や六年を過ぎ、今後のより有効な活動を日ざして組織が一新された。

古本まつりや展覧会などの催しを行う事業部、会員相互の古書に対する知識を研さんするため勉強会や研修旅行を企画する文化部、当誌「京古本や往来」の発行や出版事業を行う出版部というトリイカ体制をとることになった。

夫々の部門の担当は以下の通り。代表・中村俊一(大書堂)

事業部長・竹岡忠郎(竹岡書店) 同副部長・小林隆雄(福田屋書店) 同副部長・山崎純夫(山崎書店)



文化部長・岸本征夫(シルヴァン書店) 同副部長・山崎純夫(山崎書店) 出版部長・前田 司(キョオ書店) 同副部長・藤井 敦(文政堂) 同副部長・赤尾 薫(照文堂) 会計部長・外山 猛(外山書店)

古書の値動き活発化!

「秋に「京都古書組合創立六十周年記念大会」開催」

今秋10月23日岡崎勧業館にて、京都府古書籍商業協同組合の創立六十周年を記念して大市が開催される。これには全国の古書業者が集り大オークションとなる。以後の古書価がこれによって決定されるわけで、古書処分の絶好の機会でもある。優品の場合はあらかじめ目録に掲載され、全国の古書業者に配布されるため、最高の相場で本が処分されることになる。

但し業者のみの古書市のため一般の方が直接売り買いは出来ないが、古書業者を通じて出品も出来るし、この時期には業者も積極的に買入れもする。

古書の処分を考えておられる方はこの機会を大いに利用されては。お気軽に当会々員店にご相談下

さい。

インフォメーション

〈即売会〉

○第62回近鉄即売会

7月19日(木)〜25日(水)

〈展覧会〉

○「張簾卿と宮島詠士遺墨資料展」

7月27日(金)〜8月5日(日)

「日本の医字一千年展」医心房

撰進一千年記念

10月6日(土)〜21日(日)

いづれも思文閣美術館(電)〇七五―七五一―七七七(有料)

編集後記

六月の総会で、上記のように古書研の新陣容が決定。当誌発行の事業が、事業部より独立して出版部となり、ゆくゆくは当誌発行の他、出版事業も出がけられる体制が出来上った。

前田を部長に、藤井、赤尾が副部長、スタッフに久保田厚生(臨川書店)、藤原要(北御所書房)、竹山勝(善書堂)、飛田昭雄(文庫堂)、谷隆夫(谷書房)、井上賢二(秋書房)、三浦了三(其中堂)というチーム。

本号は新陣容が決定してから時間がながったため、腕のふりやうがなかったが、次号より斬新な誌面をつくり上げるべく、全員夏休み返上で大張り切り。

皆様の応援をお願い致します。

大 書 堂

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル

電話 (075) 221-0685

振替 京 都 7-3165



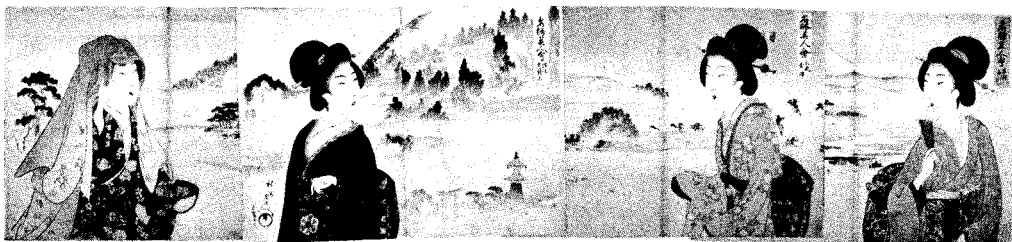
② 雀舌切雀 芳盛画 3枚続 ￥50,000



③ 浅香沼の小平治 豊国画 3枚続 ￥45,000



① 浮世戯画 珍物の見世物 2枚続 ￥30,000

④ 浅香沼の小平治
豊国画 二枚続
四五〇〇〇円⑤ 会席別嬪寿語録
国重画 袋附
五〇、〇〇〇円

⑥ 名勝美人会 周延画 2枚続 7組 一幀 ￥130,000

古書籍 東方書店

電話 (〇七五) 四九一—三〇七

〒603 京都市北区小山下内河原町六三

1	中等文法	國語	文部省	一部イタミ	昭22	二〇〇〇	二
2	話方教育の実際	鈴木敏也	函		昭5	一〇〇〇	三
3	國語教育原論	雨木敏也	函		昭10	八〇〇	四
4	國語教育易行道	芦田忠之助	函		昭10	一五〇〇	五
5	國語單元学習と評価法	金沢永吉	一部シミ		昭24	四〇〇	六
6	実演お話集 第一巻	大塚講話会			昭14	八〇〇	七
7	日本教育原論	福島政雄			昭18	七〇〇	八
8	分団教授原義	真田幸憲			昭7	四〇〇	九
9	教育学 日本教育新教科書	乙竹岩造			昭16	四〇〇	一〇
10	改訂教育学綱要 日本教育新教科書				昭16	四〇〇	一一
11	中等國語一 國語法	文部省	書入れあり		昭21	各三	一二
12	ことばのおけいこ三	文部省			昭16	三〇〇	一三
13	高等國語一の上く三の下揃六冊	文部省			昭23	三〇〇	一四
14	高等小学読本 卷一巻七	文部省	大3明42各三		昭16	三〇〇	一五
15	尋常小学読本 二十一揃	文部省	三三		昭36	三〇〇	一六
16	尋常 國語読本 九、十一、十二巻	文部省	昭10く12各三		昭16	三〇〇	一七
17	高等小学読本卷二、四 書入れあり	文部省	昭44大4各三		昭16	三〇〇	一八
18	高等小学読本卷二、四 農村用	文部省	昭12・14各三		昭16	三〇〇	一九
19	師範國語要説	文部省			昭18	三〇〇	二〇
20	師範國文 本科卷一	文部省			昭18	三〇〇	二一
21	中学英語1、2	文部省			昭23	四〇〇	二二
22	中等國語3の1、2、3、4	文部省			昭22	八〇〇	二三
23	國語 中学校第一 金森徳次郎	検定済			昭23	二〇〇	二四
24	高等科裁縫 第一学年用	文部省			昭21	三〇〇	二五
25	衣服裁縫案內 全冊 石田幸二郎	題案欠			昭17	一五〇〇	二六
26	高等小学読本 文部省編 一―五				昭21	一五〇〇	二七
27	高等小学修身書 卷二 児童用	文部省			昭15	三〇〇	二八
28	尋常小学修身書 卷五 児童用	文部省			昭5	三〇〇	二九
29	日本小学修身書 複式 卷四 児童用甲	文部省			昭8	三〇〇	三〇
30	日本青年学校教科書卷四 公科科	検定済			昭16	三〇〇	三一
31	筆算速知上 土屋智編				昭10	五〇〇	三二
32	青年 國民日本史 文科	栗田元次			昭10	二〇〇	三三
	小学作文階梯 全 木下兼祐編				昭15	六〇〇	三四

34	尋常小學修身書卷五	兒童用	文部省	昭和13	二,五〇〇,〇〇〇
35	尋常小學地理書附圖	兒童用	文部省	昭和13	二,五〇〇,〇〇〇
36	尋常小學地理書附圖	キズあり	文部省	昭和13	二,五〇〇,〇〇〇
37	尋常小學地理書附圖	キズあり	文部省	昭和10	二,五〇〇,〇〇〇
38	學校概覽 遠敷青年學校(福井)		文部省	昭和10	八,三〇〇,〇〇〇
39	戦近小学校管理法 篠原助市他	志賀匡	文部省	昭和2	五〇〇,〇〇〇
40	栃木女子付属の教育	志賀匡	文部省	昭和2	五〇〇,〇〇〇
41	特殊兒童判別基準とその解説		文部省	昭和2	五〇〇,〇〇〇
42	教育評價 小見山栄一		文部省	昭和25	四〇〇,〇〇〇
43	女子美育教典 一〇五卷検定済	美育振興	文部省	昭和2	一五〇,〇〇〇
44	帝國國画(一) 二 検定済	帝國國画研小痛み	文部省	昭和2	一五〇,〇〇〇
45	小學新定國画		文部省	昭和2	一五〇,〇〇〇
46	小學新定國画 第四学年兒童用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
47	小學新定國画 第三学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
48	小學新定國画 第二学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
49	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
50	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
51	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
52	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
53	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
54	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
55	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
56	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
57	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
58	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
59	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
60	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
61	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
62	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
63	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
64	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
65	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
66	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
67	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
68	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
69	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
70	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
71	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇
72	小學新定國画 第一学年用		文部省	昭和13	一五〇,〇〇〇

73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
高等小学修身書 第三学年用	中学公民書 上下二冊	感化修身談卷之一、二、三	改訂 中等公民科教科書 下卷	高等修身書 卷二 検定済	高等小学修身書 卷一 兒童用	尋常小学修身書 卷一 兒童用	尋常小学修身書 卷三、四、六教師用 文部省	學校體育教科書 卷一 二宮文右門他	我校の体育 鯖江女子師範、高女	國民科読本 野洲郡教育會	滋賀県誌本読本 県教育會	校友會々報二七号 東山中學校々友會	同窓會誌十・三十四号 京都三中	同窓會名簿 京都三中	洋行後車の誠 再版 金杉英五郎	俳諧秘書大全 松井敏之函	新渡米法 島貫貴太郎 十版	世界文明の新紀元 姉崎正治	相撲と武士道 北川博愛	大敵を破るまで 原田指月	窓 小山内 薫 初版	写真厚板整術全書 上田貞治郎	鉦山物語 渡辺十千郎	南阿南米行 鈴木天眼 初版	家庭と酒外十篇 日高善一編	帝國用文五千題 全 佐藤勉	軍國稅文五千題 全 伊藤洋二郎	大日本文章大成 全 沢山清太郎編	養蚕手引草 佐々木藤太郎	刪修近古史談 掬四冊	利定紀行 前田利定	死の懺悔 吉田大次郎	夢の如し 坂本四方太 初版	虚子句集 四版 函	郵信用文 全 伊沢孝雄編	歐山米水 大橋又太郎 三版
明 2	明 37	明 18	明 10	明 27	明 42	明 43	昭 14	昭 5	昭 12	昭 16	昭 9	昭 8	昭 9	大 15	大 2	大 26	大 8	大 5	大 元	大 14	明 41	大 13	大 44	大 12	明 30	明 28	明 25	明 34	明 38	明 13	大 3	昭 3	明 46	明 24	明 34	
二、五〇〇	五、〇〇〇	一五、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	昭 14 各三、〇〇〇	昭 5 三、〇〇〇	昭 12 八、〇〇〇	昭 16 四、〇〇〇	昭 9 各三、〇〇〇	昭 8 各三、〇〇〇	昭 9 各三、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇

〒604 中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五) 八一—三八九〇

33	山城国部分図 色彩肉筆 一舗	江戸末 八〇〇〇
32	三呼庵大応和尚筆 壹中日月長 一行一紙	八〇〇〇
31	於高野山真言傳授書一卷沙門真惠虫入 応永22	五〇〇〇
30	バケツ会社職員録 ナリヤンター銅版給入 昭12	三〇〇〇
29	ポルケツニシヨナルリヤー銅版給入 明19	三〇〇〇
28	散文韻文 雪月花 大和田建樹 初版	三〇〇〇
27	東本願寺殿如上人自筆書物朱点之事外 天保14	五〇〇〇
26	梅山松野栄興筆 和歌一紙尾張人美濃住	二〇〇〇
25	竹久夢二筆 絵ハガキ一通於岡崎図書館 大元	八〇〇〇
24	乾山花押 版本一個 小品	三〇〇〇
23	武田徳庵信政筆 花押入書狀一通	元禄10 八〇〇〇
22	高野山加持土砂 一包 密封少量	八〇〇〇
21	調合方江戸長松庵へ遺す文一通	元和4 五〇〇〇
20	コレ病予防費出金相成候領収書一通伏見戸長	明9 二〇〇〇
19	酒造家必要薬種正散美験必功酒直法壹岐島長田	明30 三〇〇〇
18	風月往来 書道手本一巻 虫入 古筆	三〇〇〇
17	組下条目之儀一通父母に孝行耕作出精次郎兵衛定書	三〇〇〇
16	茶人松尾宗五筆茶道具12両充払代金請取狀 文久元	五〇〇〇
15	安黄瘡之部 医書相伝書 森島頼成筆 寛永2	三〇〇〇
14	近江国大上郡唐崎社発行道中本鑑札一枚 明5	二〇〇〇
13	紙蚊帳 一帳 江戸末	三〇〇〇
12	麻布蚊帳仕入織職滋賀県発行近江物産紙鑑札一枚	明12 二〇〇〇
11	肉筆地図一紙無人島大小80余山之図 本名小笠原嶋	二〇〇〇
10	九州福岡協田氏筆 初春之和歌書下し一紙 大4	二〇〇〇
9	米月火消下野守様就當番遺様人数云々準人助筆一通	二〇〇〇
8	紀州若山報恩寺施版普賢菩薩墨摺一幅 日達	二〇〇〇
7	彦根藩刀屋中田伝之丞刀值段書寛永10通	江戸末 二〇〇〇
6	箱根 歴史地理増刊号	明43 二〇〇〇
5	新興書道之研究 上巻 日夏歌之助 水ぬれ汚	昭10 二〇〇〇
4	明治大正詩史 松本寿鶴	明43 二〇〇〇
3	難誌 少年合冊	明43 二〇〇〇
2	某林子撰註近松曾根崎心中 外簾村著 初版	明35 二〇〇〇
1	鶴屋文書 11通 正保3 江戸中	五〇〇〇

34	斧三筆句入り消息一通水鳥の跡も汚さず一紙	三〇〇〇
35	栗田口尊朝親王親筆 書道手本一巻無署名	一五〇〇〇
36	扇面 小西福年筆 萬年茸之図 一紙	三〇〇〇
37	田村幸之介筆原稿描画漫画一紙週刊朝日	昭9 三〇〇〇
38	地券一枚山城国紀伊郡福稲村京都市下京区	明18 二〇〇〇
39	平安神宮大極殿図 基春筆 石版	明27頃 二〇〇〇
40	市川団十郎肖像図一紙バック四条橋砂目刷	明22 二〇〇〇
41	日蓮宗有清寺辨財天略縁一紙北野御前下ノ森	三〇〇〇
42	山城国伏見見解里町北本新聞館廣告一紙販売拡張	明25 二〇〇〇
43	西国28番成相寺略縁起 墨摺一紙	二〇〇〇
44	元版経 新蘭五行一紙	二〇〇〇
45	石版東京名作上野公園満開之図本所区藤山刊	明39 二〇〇〇
46	今村恒美筆 週刊朝日描画南部義士影の大作画一枚	五〇〇〇
47	宮田司山筆 りんご之図一紙	三〇〇〇
48	西蔵経 一紙 9 cm×32 cm	二〇〇〇
49	東京専門学校長鳩山和夫 井手氏卒業證一枚	明25 二〇〇〇
50	木版撰州住吉神社 徳力富吉郡画 一枚	三〇〇〇
51	かつらめ筆 俳句草稿一紙	三〇〇〇
52	櫻文峰筆 鶴之図 一紙	三〇〇〇
53	杜鵑筆 俳句草稿一紙	三〇〇〇
54	中原淳一デザインちりめん刷一枚	二〇〇〇
55	東京麹町区私立小井上学校尋常科2年卒業証明	明13 二〇〇〇
56	雪峰 大岡成寛筆 山水墨絵一紙 嘉永元没	三〇〇〇
57	東京奎文堂筆 書籍代金領収書一枚	明17 二〇〇〇
58	四条高倉西具服法衣現銀安売紙袋一紙	明治初 二〇〇〇
59	お半長右衛門八屋やお七之段木版芳盛画	五〇〇〇
60	木版小品水野年方筆ニユートン引力木から実落ク画	二〇〇〇
61	阿斐虎山筆 詩画賛一紙	三〇〇〇
62	荏州小浜 茶屋兵吉 領収書一紙	江戸末 二〇〇〇
63	京大宮三菜上 公事宿白粉屋 消息一紙	江戸末 二〇〇〇
64	上京公立避難院新築寄附金領収書上京区役所	明16 二〇〇〇
65	木版大阪錦田々新聞員信田田豊島町辻君に	明9 二〇〇〇
66	金銀石印値段表小品一紙 隆奇執筆	江戸末 二〇〇〇
67	加茂川川らへ冥加金領収証古京八組一紙	安政4 二〇〇〇
68	上御堂前町 赤八幡宮墨摺一紙幸社霊講	二〇〇〇
69	岐田筆 俳句草稿一紙	三〇〇〇
70	布哇壁史 渡辺七郎 初版	昭5 五〇〇〇
71	瓢水瀧新之丞筆汚俳句一紙播州人富蒙俳家宝曆12没	八〇〇〇
72	伊賀国新橋郷田立巻扶木版複製一紙天平勝宝元	三〇〇〇

73	堤寒三筆 週刊朝日描画漫画草稿一紙	八〇〇〇
74	袖園筆 古筆詩一紙	三〇〇〇
75	先斗町魚店出し店告一紙値段相方豆腐一銭	明28 三〇〇〇
76	古版 宝舟 墨摺一紙	三〇〇〇
77	越後守筆 甲斐守宛 消息一紙 汚傷物	三〇〇〇
78	葵祭行列一づく人物図 別所東深蔵印	亨和3 三〇〇〇
79	高砂尾上靈鐘之由来 墨摺一紙 汚物	明26 二〇〇〇
80	御室88ヶ所再建方通帳 一紙	天保6 三〇〇〇
81	坪内節太郎筆洋画家肉筆描画一紙パウル女小品	明5 二〇〇〇
82	正面橋西正亭かき料理屋店告値段焼蛤3銭	明中 二〇〇〇
83	下京33番遊所惣会寺口達書お客花一朱	明5 二〇〇〇
84	塩川文麟筆 南面墨絵一紙	江戸末 二〇〇〇
85	敷内紹智筆号竹翠(10世)赤桑云々消息一紙	明治 二〇〇〇
86	大和田吉野郡古水神社宝物目録一紙	明20 二〇〇〇
87	銅版 八幡宮3字 筑前国箱崎宮蔵版一紙	明15 二〇〇〇
88	御焼失御機嫌伺書一紙本願寺下問治部卿筆虫入	明5 二〇〇〇
89	千種掃雲筆森本東閣宛消息一紙へホ基会相催明中	二〇〇〇
90	版權免許証巻菱湖書三休千字文文学社蔵版	明14 二〇〇〇
91	池田寿夫筆 週刊朝日肉筆描画漫画一紙	昭9頃 八〇〇〇
92	木島櫻谷筆 扇面一枚	三〇〇〇
93	細木原青起筆 肉筆漫画描画一枚週刊朝日	昭9 二〇〇〇
94	山城国乙訓郡鶴冠井村小作証一枚	明22 二〇〇〇
95	田中比佐良筆 肉筆漫画描画一枚週刊朝日	昭9 二〇〇〇
96	醍醐理性院鎮座無二太元明王守札略記墨摺一紙	二〇〇〇
97	駿州富士郡久沢村福泉寺曾我十郎五郎肖像一紙墨摺	二〇〇〇
98	堀田下絵守宛 消息一紙 傷物	三〇〇〇
99	阿部春峰筆 墨摺一紙	二〇〇〇
100	萬年山相国寺懺法講士紙 案内書一紙	明26 二〇〇〇
101	海外旅券No37号長藩松蔭門遠藤員一郎一紙	明2 二〇〇〇
102	奈良猿沢池辺煎茶会案内状一紙	明9 二〇〇〇
103	亀田駒楽筆 扇面詩一紙	宝暦8没 二〇〇〇
104	奈良若草山煎茶会案内状一紙	明10頃 二〇〇〇
105	僧越深筆 出雲の人 月舟柳師詩一紙	明10 二〇〇〇
106	地券一枚 美濃国石津郡境村	弘代2 二〇〇〇
107	町送り一札町勘兵衛頼むき鍵屋屋之助方縁	江戸末 二〇〇〇
108	宿場金受領書江州北庄屋藤井源四郎殿紙	江戸末 二〇〇〇
109	南都林小路町林左衛門 質札一枚	寛元2 二〇〇〇
110	平戸記 五節賀茂臨時祭装束記一紙	五〇〇〇

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一

法律・経済思想
一般書
竹岡書店電話(〇七五) 七六一・四四五
振替 京都 五一四二六二二

品切・絶版文庫特集

1	モルリイ	自然の法典	大岩 誠	昭26	四、〇〇〇
2	デュギー	法と国家	堀 眞琴	昭15	三、五〇〇
3	イエリネク	法・不法及刑罰の社会倫理的意義	大森英太郎	昭13	二、五〇〇
4	憲法義解	伊藤博文著 宮澤俊義校訂		昭15	一、五〇〇
5	イエーリシグ	権利のための闘争 日沖		昭47	四、〇〇〇
6	ウエーバー	社会科学方法論 恒藤校閲		昭12	一、〇〇〇
7	ロッドベルトウス	地代論 山口正吾		昭3	四、〇〇〇
8	リカアドオ	農業保護政策批判―地代論―			
9	カウツキー	農業問題 上巻 向坂逸郎	大川一司	昭13	三、〇〇〇
10	農業全書	宮崎安貞編録 貝原楽軒別補		昭21	二、五〇〇
11	リヤー	婚姻の諸形式 木下史郎		昭9	一、五〇〇
12	帝国主義	幸徳秋水		昭42	三、〇〇〇
13	フィヒテ	人間の使命 宮崎洋三		昭16	二、〇〇〇
14	カント・永遠平和の為に	高坂正顕		昭44	五、〇〇〇
15	マチエ	フランス大革命 ねづまき			
16	カウツキー	フランス革命時代における階級対立 (背痛) 堀江英一		昭44	三、五〇〇
17	エマソン	自然論 片上 伸		昭8	一、五〇〇
18	カント	プロレゴメナ 天野・桑木		昭2	二、二〇〇
19	アーレニウス	史的に見たる科学的宇宙観の変遷	寺田寅彦	昭45	二、五〇〇
20	マルクス	フランスの内乱 木下半治		昭19	八、〇〇〇
21	ハドソン	ラ・プラタの博物学者 岩田		昭51	一、五〇〇
22	ヘルン	東西文学評論 十一谷、三宅		昭6	二、〇〇〇
23	マルクス・エンゲルス	文学論 山崎八郎		昭29	五、〇〇〇
24	ブルックハルト	伊太利文芸復興期の文化 村松恒一郎	全2冊	昭14	三、八〇〇
25	ペーター	文芸復興 田部重治		昭30	六、〇〇〇

26	ルナン	イエス伝	津田 穰	昭41	一、五〇〇
27	ヤーコプ	ジャクリヌと日本人	相良	昭10	一、五〇〇
28	ハルナック	基督教の本質	山谷吾吾	昭36	八、〇〇〇
29	エリス	夢の世界	藤島昌平	昭27	二、〇〇〇
30	アリストパネース	女の議会 村川堅太郎	大井 征	昭50	八、〇〇〇
31	フランス	聖母と軽業師	杉 捷夫	昭14	一、三〇〇
32	フランス	昔がたり	伊吹武彦	昭10	一、三〇〇
33	フランス	シルヴェストル・ボナールの罪		昭53	一、〇〇〇
34	ソリーリヤ	ドン・ファン・テノリオリオ	高橋正武	昭24	八、〇〇〇
35	ブリュンチエール	仏蘭西文学史序説	関根秀雄	昭11	一、〇〇〇
36	バルフィンチ	希臘羅馬神話	野上弥生子	昭4	一、〇〇〇
37	ハイゼ	忘れぬ言葉	淵田一雄	昭14	八、〇〇〇
38	フィリップ	母への手紙	三好達治	昭13	一、〇〇〇
39	ステイヴンソン	南海千一夜物語	中村	昭25	一、〇〇〇
40	ステイヴンソン	若い人々のために	岩田	昭34	八、〇〇〇
41	スウヴェストウル	屋根裏の哲人	木村	昭13	一、〇〇〇
42	ゴールズワージー	吾等がために踊れ	龍口	昭25	一、五〇〇
43	クライスト	ペンテジレリア	吹田順助	昭16	一、〇〇〇
44	スウィフト	奴婢訓	深町弘三	昭25	一、〇〇〇
45	トルゲルゲニエフ	煙	原 久一郎	昭15	一、〇〇〇
46	トルゲルゲニエフ	春の水	原 久一郎	昭14	一、〇〇〇
47	幼学綱要		宮内省蔵版	昭17	一、〇〇〇
48	梅 暦	為永春水作古川校訂 全2冊		昭26	三、五〇〇
49	読史余論	新井白石著 村岡典嗣校訂		昭41	一、〇〇〇
50	杉浦重剛座談録	猪狩史中、中野刀水		昭16	一、五〇〇
51	近頃河原達引	桂川連理棚 頼桃三郎校訂		昭14	一、五〇〇
52	左千夫歌論抄	斎藤茂吉 土屋文明編		昭11	一、〇〇〇
53	平賀元義歌集	斎藤茂吉 杉村太郎校訂		昭13	一、五〇〇
54	一茶遺稿	父の終焉日記 萩原井泉水校訂		昭11	一、〇〇〇
55	沢文	逍遙遺稿附原文 笹川臨風他訳		昭4	二、〇〇〇
56	浮世風呂	武享三馬作 和田萬吉校訂		昭15	一、四〇〇
57	鼠小僧	河竹黙阿弥		昭3	一、〇〇〇
58	能作書・覚習條條・至花道書	世阿弥		昭6	一、〇〇〇
59	古語拾遺	加藤玄智校訂		昭6	一、五〇〇
60	訳註 陶淵明集	幸田露伴校閲		昭3	一、五〇〇

61	ペーリー	リカード価値論の批判	鈴木	昭22	四、〇〇〇
62	オフトロフスキー	収入ある地位	石山	昭22	一、〇〇〇
63	レイルモントフ	現代の英雄	北垣信行	昭25	三、〇〇〇
64	ギヤスケル夫人	メアリ・バートン		昭25	一、〇〇〇
65	マンチエスタ物語	上巻北澤孝一		昭	二、五〇〇
66	アラン	思想と年齢	原 亨吉	昭45	二、〇〇〇
67	ウエルズ	幸福論	石川 湧	昭42	二、〇〇〇
68	ロマ書の研究	世界文化小史	下田直春	昭46	一、五〇〇
69	共産主義の系譜	増訂新版	内村鑑三	昭45	一、五〇〇
70	ラッサー	学問と労働者公開答状	猪木正道	昭44	一、〇〇〇
71	ボン	群衆心理	桜井成夫	昭28	一、五〇〇
72	ベートーヴェン	の言葉	原田義人訳	昭28	一、〇〇〇
73	日本の財閥	土屋喬雄	全2冊	昭31	一、〇〇〇
74	寸心日記	(少痛) 西田幾多郎		昭23	一、〇〇〇
75	産業革命	藤田重行		昭32	一、〇〇〇
76	イギリス憲政史	杉本平治		昭30	一、〇〇〇
77	アメリカ独立革命	中尾健一		昭30	一、〇〇〇
78	フランス第五共和国	木下広告		昭34	一、〇〇〇
79	水素爆弾と世界	伏見康治		昭27	一、〇〇〇
80	自由党史	板垣退助監修		昭30	一、五〇〇
81	戦後日本における低賃金の実態	小島健司		昭29	一、〇〇〇
82	日本における賃金闘争の諸問題	草光 實		昭29	一、〇〇〇
83	一般的危機とフアシズム	宮川 実		昭26	一、〇〇〇
84	愛国者の道	大山郁夫、清水幾太郎他		昭27	一、〇〇〇
85	アレクサンドロフ	ソヴェットの学校教育	丸川順助共著	昭27	一、五〇〇
86	人間論		山崎 謙	昭26	一、〇〇〇
87	改訂版経済学教程		豊田四郎	昭27	一、〇〇〇
88	近代経済学批判		戸田武雄	昭27	一、〇〇〇
89	市民文庫				
90	現代文学論		青野季吉	昭26	五、〇〇〇
91	二十世紀文学の展望		中村真一郎	昭28	五、〇〇〇
92	たつた一人の山		浦松佐美太郎	昭26	五、〇〇〇
93	風俗小説論		中村光夫	昭26	五、〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル
同志社正門前
沢田書店
電話(〇七五)四五一〇五二三
振替 京都 三一一九一四八

27	我等の牧者 非売品	渡部先生追想録 落合基督伝道出版	昭10	二、〇〇〇
26	印度途上の基督	ジョーンズ今井訳 ダヴィッド社	昭24	一、五〇〇
25	キリスト教思想史	石原謙 角川全書	昭24	一、五〇〇
24	神と真との誠説教集	山谷省吾 比叡書房	昭21	一、〇〇〇
23	真実を求むる者基督者	小田切信男 クラーク書房	昭26	一、〇〇〇
22	基督教の焦躁	小田切信男 新教出版	昭25	一、〇〇〇
21	日本悲歌	藤原藤男 明和書院	昭25	一、〇〇〇
20	日本基督教	藤原藤男 堺ともし社	昭17	一、〇〇〇
19	主イエス	八代斌助 聖公会出版	昭12	一、五〇〇
18	民衆の聖書イザヤ書	山室軍平 救世軍出版	昭15	一、〇〇〇
17	民衆の聖書エレミヤ書	山室軍平 救世軍出版	昭12	一、〇〇〇
16	民衆の聖書エズラ書	山室軍平 救世軍出版	昭11	一、〇〇〇
15	民衆の聖書ヨシエア記	山室軍平 救世軍出版	昭11	一、〇〇〇
14	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
13	民衆の聖書民数記	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
12	民衆の聖書申命記	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
11	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
10	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
9	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
8	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
7	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
6	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
5	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
4	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
3	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
2	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇
1	民衆の聖書サムエル書	山室軍平 救世軍出版	昭10	一、〇〇〇

〒602 京都市上京区河原町今出川上ル
(株) 善書堂
電話(〇七五)二二二一七七一

34	文楽人形図譜	宮尾しげを 時代社	昭17	八、〇〇〇
33	吉右衛門自伝	中村吉右衛門 啓明社	昭26	八、〇〇〇
32	歌舞伎と近代劇概論	伊藤著 文獻書院	昭13	三、〇〇〇
31	続歌舞伎劇鑑賞	三宅三郎 三田文学	昭18	二、〇〇〇
30	芝居ざんげ	小村花菱 金星堂	昭17	二、〇〇〇
29	川村花菱脚本集	小村一三 三田文学	昭17	二、〇〇〇
28	劇の創作と鑑賞	島村民蔵 新詩壇社	昭13	二、〇〇〇
27	現代演劇論	岸田国士 白水社	昭16	二、〇〇〇
26	芸術園巡礼	林久雄 岩波書店	昭14	二、〇〇〇
25	演芸風聞録	水谷乙次郎 朝日新聞社	昭5	三、〇〇〇
24	八八製作法大全	永谷乙次郎 学振刊	昭8	四、〇〇〇
23	浄曲の新研究	小山正著 字振刊	昭37	八、〇〇〇
22	わらべ唄考	藪田義雄 カワイ楽譜	昭36	三、〇〇〇
21	名曲解説	牛山充 京文社	昭12	二、〇〇〇
20	西洋音楽十二講	前田三男 アルス	昭10	二、〇〇〇
19	西洋音楽全史	服部訳 アルス	昭10	二、〇〇〇
18	音楽鑑賞論	守田正義 三笠書房	昭12	一、〇〇〇
17	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
16	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
15	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
14	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
13	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
12	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
11	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
10	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
9	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
8	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
7	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
6	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
5	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
4	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
3	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
2	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇
1	音楽鑑賞論	牛山充 京文社	昭12	一、〇〇〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一
(仏光寺通西新道東入)
藤原学北御所書房壬生営業所
電話(〇七五)三二五一五六〇

33	遊佐馬術	遊佐幸平 遊佐幸平	昭15	二、〇〇〇
32	フィリスの馬術	遊佐幸平 遊佐幸平	昭4	三、〇〇〇
31	拍車	小津茂郎 遊佐幸平	昭18	三、〇〇〇
30	英雄と馬	佐藤清明 遊佐幸平	昭29	三、〇〇〇
29	馬の表現	間直之助 遊佐幸平	昭29	三、〇〇〇
28	狼の愛情	林要 遊佐幸平	昭11	一、〇〇〇
27	動物紳士録	朝日新聞社会部編 林要	昭30	一、〇〇〇
26	聖書に見る動物の世界	橋本重郎 朝日新聞社会部編	昭46	一、〇〇〇
25	動物紳士録	橋本重郎 朝日新聞社会部編	昭30	一、〇〇〇
24	内外普通背植物誌	秋山連三 橋本重郎	昭10	三、〇〇〇
23	野に光あふれて	初版カパー 秋山連三	昭17	二、〇〇〇
22	篤農伝	初版カパー 和伝	昭16	二、〇〇〇
21	戦列の言葉	初版カパー 和伝	昭13	二、〇〇〇
20	日本金鈴会	初版カパー 和伝	昭13	二、〇〇〇
19	蕨原譚	初版カパー 和伝	昭13	二、〇〇〇
18	小説永井荷風伝	新書 佐藤春夫	昭35	二、〇〇〇
17	荷風思ひ出草	新書 佐藤春夫	昭23	二、〇〇〇
16	荷風雑観	復刻版 佐藤春夫	昭54	一、〇〇〇
15	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
14	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
13	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
12	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
11	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
10	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
9	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
8	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
7	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
6	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
5	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
4	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
3	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
2	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇
1	讃岐の道	同郷士読本刊行 峠の会	昭49	一、〇〇〇

〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24-12

石川古本店

電話(〇七五) 七一一・五四二九
振替 京都 七一二・〇八九

1	住友銀行史	昭30	二,五〇〇
2	続住友銀行史	昭40	二,五〇〇
3	住友銀行三十年史	昭45	二,五〇〇
4	住友銀行八十年史	昭54	三,〇〇〇
5	大丸二百五拾年史	昭42	三,〇〇〇
6	明治火災保険株式会社五十年史	昭17	二,五〇〇
7	日本生命九十年史	昭55	二,〇〇〇
8	日本市勢史	大11	三,〇〇〇
9	川柳年鑑 一九七二年版	昭17	一,〇〇〇
10	川柳年鑑 一九七三年版	昭17	一,〇〇〇
11	建築 板垣鷹穂	昭17	四,〇〇〇
12	図解建築と家相 毛野直人	昭10	四,〇〇〇
13	図解日本座敷の飾り方 杉本文太郎	大10	五,〇〇〇
14	古建築鑑賞 川勝政太郎	昭22	二,〇〇〇
15	神道の理論 中西旭	昭28	二,〇〇〇
16	神社名鑑「正誤表」	二,〇〇〇	
17	神社祭式同行事作法(附祝詞例文及解説)	昭23	一,〇〇〇
18	普通禮法 (神社本廳)	昭27	一,〇〇〇
19	志賀山夜話 平田一翁	昭27	一,〇〇〇
20	滋賀県文化財目録 (滋賀教育委員会)	昭28	一,〇〇〇
21	海東の仏教 中 吉功 圖書刊行会	昭48	八,〇〇〇
22	神皇正統記 鎌倉芳太郎 圖書刊行会	昭51	七,五〇〇
23	日本の女裝(きもの編) 吉川観方	昭45	八,〇〇〇
24	日本の女裝 吉川観方	昭51	四,〇〇〇
25	四天王寺寶塔壁畫 堂本印象	昭16	七,〇〇〇
26	フイードレル 藝術論 金田廉譯	昭30	三,〇〇〇
27	日本絵画論 中井宗太郎	昭51	三,〇〇〇
28	冒羅之芸術 三木 栄	昭51	二,五〇〇
29	現代商業図案大観 上地天逸	大13	二,〇〇〇
30	日本美術の特質 矢代幸雄	昭19	二,〇〇〇
31	陶器図録 第8巻(支那篇下)	昭17	一,〇〇〇
32	大西郷展覧会記念写真帖(京都大丸)	昭26	二,〇〇〇
33	主賓 日本婦女鑑 鈴木常松	昭26	二,〇〇〇

〒604 京都市中京区寺町通三条北

其 中 堂

電話(〇七五) 二二一・二九七
振替 京都 二二五・三七八

1	宋本古尊宿語要	二,八〇〇	
2	禪門撮要 禪源諸詮都序・法集別行録節要	三,〇〇〇	
3	四家語録・五家語録	三,〇〇〇	
4	祖堂集	三,〇〇〇	
5	宝林伝・伝灯玉英集	三,〇〇〇	
6	宋版高麗本 景德伝灯録	四,〇〇〇	
7	六祖壇經諸本集成	四,〇〇〇	
8	數修百丈清規左触・庸峭余録 全三冊	九,〇〇〇	
9	禪林象器箋・葛藤諸箋・禪林句集并苗 全三冊	九,〇〇〇	
10	臨濟録抄書集成 全二冊	二,〇〇〇	
11	以上禪字叢書 柳田聖山編	昭45	昭55
12	碧巖集提唱録	昭55	七,〇〇〇
13	碧巖集	昭55	二,〇〇〇
14	冠註和訳碧巖集	昭58	二,〇〇〇
15	新釈碧巖集	昭59	三,〇〇〇
16	碧巖集	昭57	三,〇〇〇
17	全訳碧巖集 第一卷	昭56	八,〇〇〇
18	臨濟録提唱 佐橋法龍	昭59	一,〇〇〇
19	臨濟録 臨濟録	昭56	二,〇〇〇
20	臨濟録 臨濟録	昭56	二,〇〇〇
21	英訳臨濟録 佐々木ルース	昭50	二,〇〇〇
22	無門関提唱 山本玄峰	昭58	二,〇〇〇
23	無門関提唱 朝比奈宗源	昭56	二,〇〇〇
24	訓註心髓無門関 安谷白雲	昭59	二,〇〇〇
25	英訳無門関 ブライス	昭53	一,〇〇〇
26	無門関 平田高士	昭58	三,〇〇〇
27	無門関 禪文化研究所	昭58	二,〇〇〇
28	禪門逸話集成 全三冊 小川弘貫	昭54	三,〇〇〇
29	圓悟心要講話 今枝愛真	昭57	五,〇〇〇
30	中世禅宗史の研究 服部頼道	昭54	二,〇〇〇
31	正法山六祖伝訓註	昭54	二,〇〇〇
32	天目中峰国師の研究	昭55	二,〇〇〇

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

社会科学系と 山書店

電話(〇七五) 七〇一・六六二七
振替 京都 九一六・三八四

1	社会学辞典	昭33	一五,〇〇〇
2	社会学辞典	昭19	一五,〇〇〇
3	新版社会学思想史辞典	昭36	二,〇〇〇
4	政治学事典	昭35	二六,〇〇〇
5	ベルヴィン・経済学小辞典	昭35	八,〇〇〇
6	現代金融事典 全6冊	昭40	二,〇〇〇
7	最新工業大辞典 全18冊	昭12	一八,〇〇〇
8	農家節用農業辞典	昭39	五,〇〇〇
9	日本史辞典 京大文学部国史研究室編	昭29	六,八〇〇
10	現代史事典―附現代史年表― 創文社版	昭30	五,〇〇〇
11	大日本人名辞典 第七版 経済雑誌社	大1	六,〇〇〇
12	新約ギリシヤ語辞典 岩隈直	昭54	五,〇〇〇
13	現代中国人名辞典一九六二年版霞関会編	昭37	七,〇〇〇
14	教育研究事典 金子書房	昭29	六,〇〇〇
15	国語大辞典 小学館	昭57	七,五〇〇
16	日本語教育事典 日本語教育学会	昭57	一〇,〇〇〇
17	演劇映画放送舞踊オペラ辞典 白水社	昭30	五,〇〇〇
18	読書指導事典―指導編― 阪本一郎他編	昭36	五,〇〇〇
19	学校運営辞典 波多江明他	昭30	四,五〇〇
20	モダン語漫画辞典 中山由五郎	昭6	五,〇〇〇
21	官庁刊行図書目録(復刻版) 全22輯	昭6	五,〇〇〇
22	1号(昭2) 44号(昭12)	昭33	二五,〇〇〇
23	日本社会主義文献解説 渡辺・塩田編	昭33	二六,〇〇〇
24	経済学文献大鑑(復刻版) 全4巻 池田義象	昭50	二二,〇〇〇
25	経済学文献大鑑(復刻版) 全1巻 大阪商科大学	昭55	六,〇〇〇
26	社会科学文献解説(復刻版) 全5巻 大阪商科大学	昭59	二〇,〇〇〇
27	社会科学大事典 全20冊 大阪市立大学	昭59	七,〇〇〇
28	社会科学文献解説全3冊 東峰書房版	昭26	二二,〇〇〇

千 606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

井 上 書 店

電話(〇七五) 七八一三三三二
振替 京都 七二二四九七

1	満洲土産 写真帖	昭 3	三、〇〇〇
2	南支派遣軍 写真集	昭 15	二、〇〇〇
3	北支蒙古の住居	昭 18	四、〇〇〇
4	概観維新史	昭 15	三、〇〇〇
5	本邦人口増加の傾向及び数量の変動に就いて	昭 10	二、五〇〇
6	農工両全への途 福岡県安徳村調査座談会	昭 18	三、〇〇〇
7	学区制度に関する調査書 京都教育庁学務課調査	昭 4	三、〇〇〇
8	東京市視察調査報告書 学区制度調査委員会	昭 10	四、〇〇〇
9	名古屋市視察調査報告書	昭 10	三、〇〇〇
10	大阪府視察調査報告書	昭 11	三、〇〇〇
11	神戸市視察調査報告書	昭 11	三、〇〇〇
12	兵庫県民俗調査報告書	昭 11	三、〇〇〇
13	西播磨地民俗資料緊急調査報告	昭 47	八、〇〇〇
14	京都府文化財調査報告	昭 39	七、〇〇〇
15	素戔鳴尊奉祀神社の調査	昭 52	二、〇〇〇
16	伊豫海賊史話	昭 11	一、五〇〇
17	伊太利及獨逸の電気事業概要 小林一二	昭 16	一、〇〇〇
18	南大阪町向野部落の調査報告	昭 32	二、〇〇〇
19	日露戦争史	昭 42	四、〇〇〇
20	即位禮と大嘗祭 三浦周行京都府教育会	昭 3	六、五〇〇
21	平安教会百年史	昭 51	二、五〇〇
22	平安女学院八十五年史	昭 35	一、〇〇〇
23	江戸のデザイン 草森紳一	昭 47	九、〇〇〇
24	広重 内田 實 岩波書店	昭 53	二、〇〇〇
25	伝説と現代 南博編全12冊 学芸書林	昭 51	一、五〇〇
26	嶗山旅書帖 荒木杜司馬	昭 55	八、〇〇〇
27	現代天文学事典 荒木俊馬	昭 54	三、〇〇〇

千 602 京都市上京区大宮通出水下る
家永町七六一

文 庫 堂

電話(〇七五) 八二一七二五九
振替 京都 二二四二五七九

1	東亜考古学概観 梅原未治	昭 22	二、〇〇〇
2	東亜考古学論攷 第一 梅原未治	昭 19	六、〇〇〇
3	朝鮮古代の文化 梅原未治	昭 21	三、〇〇〇
4	朝鮮の通過儀礼 金泰鉉	昭 47	七、〇〇〇
5	広開土陵碑の研究 李進熙	昭 50	七、〇〇〇
6	朝鮮の姓 朝鮮総督府編	昭 58	一、五〇〇
7	民俗学関係雑誌文獻総覧 竹田旦編	昭 34	三、〇〇〇
8	日本郷土図観 印南高一編 神港新聞社	昭 33	五、〇〇〇
9	北海道史概説 奥山亮	昭 25	三、〇〇〇
10	羅臼村郷土史	昭 31	一、〇〇〇
11	アイヌの生活 北方文化写真シリーズ	昭 9	五、〇〇〇
12	大阪府史 概説篇	昭 9	五、〇〇〇
13	大阪府史 法令篇	昭 9	七、〇〇〇
14	大阪府史 経済篇 中・下 二冊	昭 33	三、〇〇〇
15	郷土誌ひらおか 12号のうち2・5・9号欠	昭 27	二、〇〇〇
16	奈雅瑤奇 創刊・二号 れなせんさ会	昭 4	四、〇〇〇
17	日本基督教史 全 比屋根安定	昭 45	六、〇〇〇
18	日本キリスト教史 海老沢・大内	昭 5	七、〇〇〇
19	同志社五十年史	昭 40	六、〇〇〇
20	同志社九十年小史	昭 54	八、〇〇〇
21	同志社百年史 通史編一・二	昭 15	五、〇〇〇
22	新島先生書簡集 統	昭 26	一、〇〇〇
23	賀川豊彦の生涯 教育報国篇 森中	昭 18	二、〇〇〇
24	京都古智志 宮座と講 井上頼寿	昭 29	一、〇〇〇
25	北炎災害誌 函欠	昭 7	一、〇〇〇
26	西陣史 佐々木信三郎 函付	昭 48	三、五〇〇
27	大京都誌 野中凡童	昭 32	二、〇〇〇
28	新熊野観音寺千五百年史 出雲路敬和編	昭 44	三、〇〇〇
29	京都織物卸市場の概要	昭 42	二、五〇〇
30	京都市公設小売市場の五〇年	昭 44	二、〇〇〇
31	東山学園百年史	昭 42	二、五〇〇
32	東山学園	昭 42	二、五〇〇
33	銀鈴社	昭 42	二、五〇〇

千 600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル

三 密 堂 書 店

電話(〇七五) 三五一九六六一
振替 京都 四一三四七一

1	三階教之研究 矢吹慶輝著 岩波書店	昭 48	一、〇〇〇
2	新撰仏像図鑑二冊 國訳秘密機軸編 第一書 長井真琴著 大東出版	昭 51	二、〇〇〇
3	宗教生活法 中西泰賢著 宣揚会	昭 12	二、〇〇〇
4	印度哲学宗教史 木村春樹著 明治書院	昭 18	三、五〇〇
5	布哇本派本願寺教団沿革誌同教団編同刊	昭 29	三、五〇〇
6	本願寺成就文講讀小泉義昭著 興教書院	昭 16	二、五〇〇
7	立正安國論講義 清水龍山著 東方書院	昭 9	四、〇〇〇
8	碧巖録私話二冊 菅原時保著 同文館	昭 14	七、〇〇〇
9	金剛經講話 釈宗演著 平凡社	昭 4	二、〇〇〇
10	阿吽阿會寄二冊 富岡俊次郎編 同刊	昭 7	一、〇〇〇
11	密宗安心教示章 松佑寺編 同刊	昭 17	一、〇〇〇
12	密宗安心教示章 松佑寺編 同刊	昭 17	一、〇〇〇
13	諸仏綜合団樂法則 矢坂寛道編 松佑寺	昭 39	一、五〇〇
14	出家著作法 宮野有智編 同会	昭 14	二、五〇〇
15	善惡種蒔鏡 小田亀次郎編 同編	昭 36	一、〇〇〇
16	四柱推命術秘伝 佐藤六龍著 香草社	昭 49	五、〇〇〇
17	家相真法秘要 田中昌穂著 相模書房	昭 44	一、五〇〇
18	家相方鑑全書 高木兼著 春江堂	昭 14	三、〇〇〇
19	方鑑家相講話 飯田天涯著 浩文社	昭 11	三、五〇〇
20	数約典範 一冊 中垣徹人著 正統運命堂	昭 29	八、五〇〇
21	神事秘法類苑 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 12	四、〇〇〇
22	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
23	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
24	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
25	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
26	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
27	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
28	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
29	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
30	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
31	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
32	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇
33	神皇太神法典 瑞垣鈴鳴著 神皇典	昭 13	四、〇〇〇

電話(〇七五) 四三一―二七二
振替 京都 八一―四三六

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル

電話(〇七五) 四三一―二七二
振替 京都 八一―四三六

- | | | | | |
|----|---------------------|----------------|------|-------|
| 1 | 安藤文庫善本目録 | 京都女子大学図書館 | 昭和50 | 七〇〇〇 |
| 2 | 皇明文海目録・索引稿二冊 | 京大人文研 | 昭和36 | 六〇〇〇 |
| 3 | 外交関日記 | 永富家編纂委員會 | 昭和47 | 八〇〇〇 |
| 4 | 高倉閑録 | 石井菊次郎 | 昭和5 | 八〇〇〇 |
| 5 | 道の自然 | 永井 潜 | 昭和13 | 八〇〇〇 |
| 6 | 和漢薬用植物 | 刈米達夫・木村雄四郎共著 | 昭和14 | 六〇〇〇 |
| 7 | 現今八大教育思潮 | 大日本學術協會編 | 昭和8 | 六〇〇〇 |
| 8 | 読書指導—原理と方法— | 阪本一郎 牧書店 | 昭和28 | 三〇〇〇 |
| 9 | 表現指導—作文の基礎能力— | 倉沢栄吉 | 昭和32 | 二、五〇〇 |
| 10 | 形成と自然的環境二宅剛一 | 弘文堂 | 昭和36 | 八〇〇〇 |
| 11 | 存在の基礎—ハルトマン著— | 高橋敬規訳 | 昭和17 | 六、五〇〇 |
| 12 | 純粋行動の哲学 | ジュンティイ著・三浦逸雄訳 | 昭和14 | 三、〇〇〇 |
| 13 | ラフス 蓋然性の哲学的考察 | 伊藤徳之助訳 | 昭和6 | 三、五〇〇 |
| 14 | 表現愛 | 木村素衛 | 昭和17 | 二、六〇〇 |
| 15 | カント研究 | 宮本和吉 | 昭和17 | 二、〇〇〇 |
| 16 | パルメニデース | 長澤壽訳 | 昭和15 | 二、〇〇〇 |
| 17 | ギンケルマン | 平澤逸 | 昭和15 | 二、〇〇〇 |
| 18 | ハイデッガーの哲学 | フィッシュャー著・佐藤肇二訳 | 昭和16 | 二、〇〇〇 |
| 19 | カッシャア神話 | 矢田部達郎訳 | 昭和16 | 二、〇〇〇 |
| 20 | 人物と思想 | 深井英五 日本評論社 | 昭和14 | 二、〇〇〇 |
| 21 | 世界文学と比較文学史 | シュトリバ著・伊藤雄訳 | 昭和8 | 二、〇〇〇 |
| 22 | ガランチュラ大年代記 | 解説 再版 渡邊一夫訳 | 昭和18 | 四、〇〇〇 |
| 23 | 近代絵画論少ヌレ | 植田壽藏 | 昭和14 | 三、〇〇〇 |
| 24 | 西洋美術史要 | 板垣篤穂 | 昭和14 | 三、〇〇〇 |
| 25 | 美学通史 | 井上政次・鍋島能弘共訳 | 昭和19 | 三、五〇〇 |
| 26 | 麒麟麦酒株式會社五十年史 | 雄山閣 | 昭和32 | 五、〇〇〇 |
| 27 | 麒麟麦酒の歴史 | ——戦後編 | 昭和44 | 五、〇〇〇 |
| 28 | 明治屋七十三年史 | —— | 昭和36 | 三、五〇〇 |
| 29 | 平安宮三百年のあゆみ | —— | 昭和54 | 二、〇〇〇 |
| 30 | ワカウ大極殿跡の発掘調査第一輯 | 古代学会 | 昭和51 | 五、〇〇〇 |
| 31 | 平安京関係遺跡発掘調査概報 | —— | 昭和51 | 三、〇〇〇 |
| 32 | 京都市高速鉄道路烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ | —— | 昭和51 | 二、〇〇〇 |
- (二六年度—二六年度本文編、図版編計二冊)

電話(〇七五)三五一一九二六
振替 京都 七―三一五

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

電話(〇七五)三五一一九二六
振替 京都 七―三一五

- | | | | | | |
|----|--------------|-----------------|--------|--------|-------|
| 1 | 大陪求陀羅尼版本 | 加持護符用 | 江戶期 | 一枚 | 五〇〇〇 |
| 2 | 御嶽大權現天像 | 信州木曾福島 | 藤原義具圖 | 木版一幅 | 五〇〇〇 |
| 3 | 大聖觀喜天尊御肖像 | 靈符障礙神像 | | 木版一幅 | 六〇〇〇 |
| 4 | 成田山不動三尊像 | | | 木版一幅 | 六〇〇〇 |
| 5 | 西大寺十一面觀音像 | | | 木版一幅 | 四〇五〇 |
| 6 | 年歲神像 | 正月大年神四柱 | | 木版一幅 | 三〇〇〇 |
| 7 | 江嶋弁財天三尊 | 本宮上之宮下之宮 | | 木版一幅 | 三〇五〇 |
| 8 | 伊勢奈奈美尊、二柱神像 | | | 木版一幅 | 三〇〇〇 |
| 9 | 出雲須佐大宮大神二柱像 | | | 木版一幅 | 三〇〇〇 |
| 10 | 大雲神佐三尊 | 阿波國麻植郡市屋 | | 木版一幅 | 三〇〇〇 |
| 11 | 日降社神像 | 阿波國勝浦郡中田村 | | 木幅一幅 | 二五〇〇 |
| 12 | 福満大黒天像 | 阿波國中津藩 | | 木幅一幅 | 二五〇〇 |
| 13 | 阿波國太龍寺本尊 | 虚空藏菩薩像 | | 木版一幅 | 四〇〇〇 |
| 14 | 阿州今津神庇寺 | 大黒神像 | | 木版一幅 | 二五〇〇 |
| 15 | 阿州徳島佐古庚申尊 | 天正寺 | | 木版一幅 | 二五〇〇 |
| 16 | 津田八幡神像 | | | 木版一幅 | 二五〇〇 |
| 17 | 日の出大判之図 | エビス大黒・商家商業記念日掛物 | 肉筆一幅 | 一八〇〇〇 | |
| 18 | 大徳寺第20世宗親紹興筆 | 「為岳俊庵七百年后」汚れあり | 一枚 | 五〇〇〇〇 | |
| 19 | 黄葉山性董和尚筆 | 「暮春之初排別」紫雲和尚宛 | 汚れあり一枚 | 五〇〇〇 | |
| 20 | 土佐日記俚言解 | 改訂版(昭和23年刊) | | 半紙二冊 | 九五〇 |
| 21 | 土佐日記舟ノ直路 | 橘池室 | | 半紙二冊 | 八五〇 |
| 22 | 土佐日記正文 | 橘守部訂正 | | 半紙 | 五〇〇〇 |
| 23 | 校書土佐日記 | | | 大本 | 五〇〇〇 |
| 24 | 古今和歌集 | 源昌數書写本 | | 大本二冊 | 二〇〇〇〇 |
| 25 | 南朝記伝 | 写本 | | 大本四冊 | 三〇〇〇〇 |
| 26 | 聖徳太子実録 | 如意林一風 | | 大本二冊 | 六五〇 |
| 27 | 圓光師伝 絵入 | 浄土教報社 | 明治版 | 中本十二冊揃 | 三〇〇〇〇 |
| 28 | 父思重事鈔 | 虫入本 | | 大本二冊 | 一五〇〇 |
| 29 | 父母恩重經和解 | 山田雄弁 | 合本 | 大本一冊 | 一〇〇〇〇 |
| 30 | 金光明最勝王經 | 山田保延堂版 | | 折本二冊 | 九五〇 |
| 31 | 寶山寺開祖行業記 | 後版 | | 大本 | 二〇〇〇 |
| 32 | 念仏草紙 | 後版 | | 大本 | 三〇五〇 |
| 33 | 法華經釈讃順記 | 高野山妙瑞 | 元文版大本 | | 三〇〇〇 |

電話 (〇七五) 七八一—二三二六

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

電話 (〇七五) 七八一—二三二六

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|---------|------------|------|------|------|----------|-------|----------|----------|--------|----------|----------|-------|--------|-------------|-----------|-----------|-------|---------|--------|---------|------|------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 京都民家譜 | 日本釣具大全 | 書体別日本の書 | 日本の七宝 | 蔦絵 | 草の扇絵 | 加山又造 | 日本伝統織物集成 | 東洋文様史 | ミル染織文獻総覧 | 日本染織文獻総覧 | 塔 | 大六仏開眼 | 世界デカメロン号 | 卑語の起源 | エロスの周辺 | 写真集秘道追憶ジバンギ | ラフ・レーニンボー | 高橋鉄コレクション | 性美術入門 | 江戸時代の生活 | 日本枕絵大観 | 浮世絵秘画全集 | 秘版北齊 | 秘版北齊 | 秘版北齊 | 秘版北齊 | 秘版北齊 | 日本秘画史 | 浮世絵芸術 |
| 毎日新月异 | 高崎武雄監修 | 小松茂美監修 | 鈴木規夫 柳原浩編著 | 松田権六 | 東室蒼 | 又造 | 後藤謙一 | 渡辺素舟 | 後藤謙一 | 後藤謙一 | 本田敏雄撮影 | 四天王寺記念出版 | 文芸春秋 | 中島利一郎 | 会田芳子 | (写真集) | 正統二冊 | 雄山閣 | 西島実 | わじわるし | 近代美術社 | 秘版國貞 | 秘版國貞 | 秘版國貞 | 秘版國貞 | 秘版國貞 | 秘版國貞 | 秘版國貞 | 日本浮世絵協会々誌 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昭47 | 昭56 | 昭56 | 昭54 | 昭53 | 昭54 | 昭54 | 昭50 | 昭46 | 昭54 | 昭55 | 昭53 | 昭54 | 昭2 | 昭42 | 昭55 | 昭56 | 昭56 | 昭44 | 昭44 | 昭55 | 昭54 | 昭50 | 昭48 | 昭48 | 昭53 | 昭54 | 昭37 | 昭37 | |
| 六〇〇〇 | 六五〇〇 | 六五〇〇 | 七五〇〇 | 三〇〇〇 | 三〇〇〇 | 三〇〇〇 | 八五〇〇 | 三〇〇〇 | 七五〇〇 | 三〇〇〇 | 二五〇〇 | 八五〇〇 | 二〇〇〇 | 二〇〇〇 | 六〇〇〇 | 七五〇〇 | 一〇〇〇 | 三〇〇〇 | 四五〇〇 | 二五〇〇 | 二五〇〇 | 五八〇〇 | 六八〇〇 | 二二〇〇 | 二八〇〇〇 | 六五〇〇〇 | 六五〇〇〇 | | |

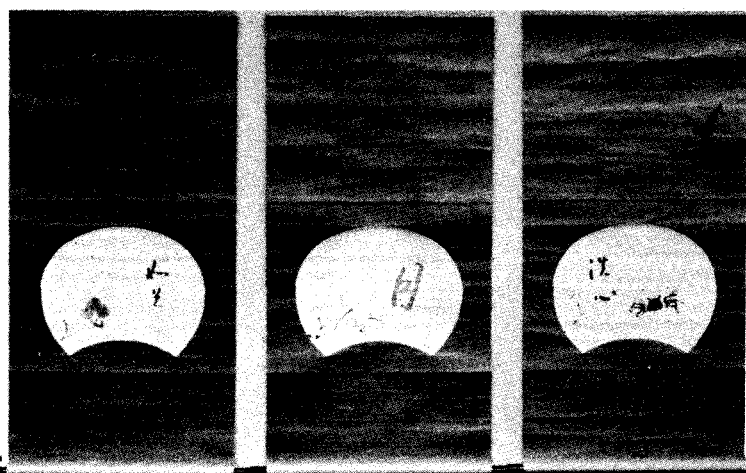
文 藻 堂

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル

電話(〇七五)二三二一九一四
振替 京都 八一六 一五

1 大石順教尼扇自画賛幅 三幅対 自題共箱入

一二〇,〇〇〇円

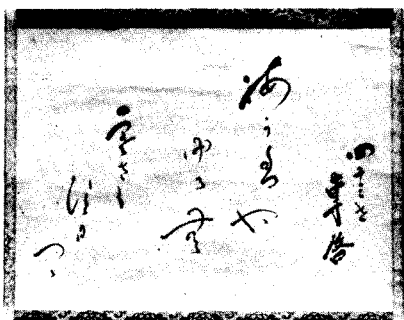
彩色図右「かに図に洗心」中「す、きに月」
左「枇杷図に如是」(各40×84浬)

2

菊池五山賛 鼎新画 人物画賛
(本紙44×28浬) 彩色 杉箱
三八〇,〇〇〇円

中央横線ハ汚ニアラズ

3

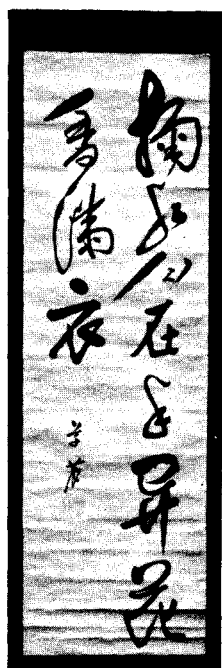
池坊専啓 俳句幅 紙装ウブナリ
(本紙40×30浬) 四〇〇,〇〇〇円

梅が香やゆるむ寒さもひと日づ、

4

蘭陵越宗 二行書幅 紙装(紙本27×90浬) 箱入

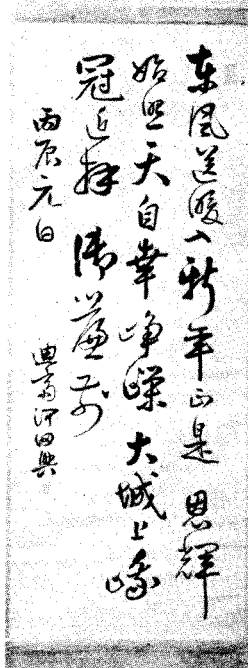
六五,〇〇〇円



5

河田迪斎 七絶詩幅 裂装(絹本42×113浬) 箱入

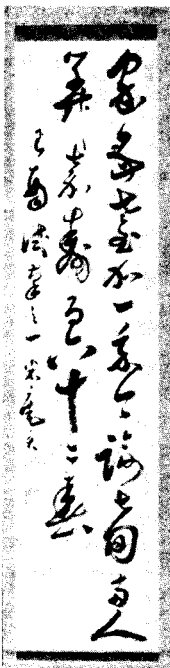
二八,〇〇〇円



6

市河米庵 五絶詩幅 紙装(紙本30×130浬) 箱入

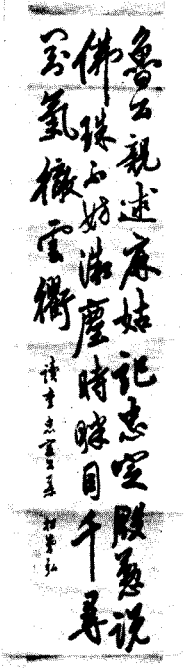
三五,〇〇〇円



7

摩嶋松南 七絶詩幅 絹装(紙本28×133浬) 箱入

二八,〇〇〇円



〒600 京都市下京区七条通堀川角

電話(〇七五) 三六一—七六九五
振替 京都 一一一七九

1	日本仏教研究	日華仏教研究会年報3	昭和13	五,000	
2	支那諸宗と其祖師	仏教研究5卷5・6	昭和18	五,000	
3	教士禪師の特輯	摩訶衍14	昭和19	五,000	
4	記主禪師上人特輯	專修學報12	昭和19	五,000	
5	向阿上人傳	專修學報12	昭和19	五,000	
6	頭書阿弥陀經	大本	江戸初期刊	一,500	
7	阿弥陀經秘直談鈔	三卷合本	承応三年刊	二,000	
8	淨土論	大本	江戸初期刊	一,500	
9	淨土論隨釈	恵日閣月珠	二冊揃 明治刷	七,000	
10	頭書讚阿弥陀偈	大本	正徳五年刊	四,000	
11	唯信鈔 写本	片カナ	元禄九年写	三,500	
12	浄土真宗教典志	宗侶章疏	大本	江戸中期刊	四,000
13	安心決定鈔	片カナ	中本二冊揃	江戸初期刊	四,000
14	愚亮鈔 写本	大本二冊揃	江戸初期刊	五,000	
15	尊号真像鈔	片カナ	大本合本	承応三年刊	八,000
16	末燈鈔	片カナ	大本二冊揃	江戸初期刊	八,000
17	親覺入御消息集	片カナ	大本三冊揃	元禄二刊	二,000
18	推来鈔	聖觀二十一ヶ條	片カナ	江戸初期刊	八,000
19	疑破執真鈔(一親覺)	片カナ	江戸初期刊	八,000	
20	口伝抄	片カナ	落丁有 三冊揃	江戸初期刊	五,000
21	改訂鈔	片カナ	大本二冊揃	江戸初期刊	三,000
22	淨土真要鈔	片カナ	写本	江戸中期刊	三,000
23	正信偈私記	慶長十年慶秀	明暦二年写	江戸末期刊	四,000
24	報恩講式・歎徳文	龍谷山藏版	寛政九年刊	二,000	
25	冠註 分別六合釈	大伝法院	全二十卷七冊	明治写本	二,500
26	萬葉集	總入	大本二冊揃	天明七刊	一五,000
27	伊勢物語	總入	大本二冊揃	文政四刊	一五,000
28	紫式部日記傍註	壺井義和	二冊揃	小虫 嘉永刊	五,000
29	天滿宮御伝記略	繪入	二冊揃	宝永七年刊	三,000
30	南麿部洲万国掌篆之図	筆彩入	安永五年改正	五,000	
31	大和国大絵図	厚紙表紙	大一鋪	安永七年刊	五,000
32	山城州大絵図	厚紙表紙	大一鋪	安永七年刊	五,000

〒606 京都市左京区田中大久保町22
(東大路叡電交差北)

電話(〇七五) 七一一七二四八
振替 京都 〇一一八三六

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
国語の愛護	国語尊重的根本養	言語学序説 改訂版	明治の作家	日本の近代文芸と早稲田大学	国文学書目集覧 垣内松三・毛利 昌	読本の朗読法 神保 格 赤崎アリ	実践教科経営の要訣 滋賀師範附属小学	近江商人中井家の研究 江頭恒治	民権闘争七十年 尾行雄	満洲国之将来 末廣清信	寶庫スモトラ 大廣清信	満鉄を語る 松岡洋右	世界に於ける明治天皇 望月小太郎編訳	東寺百合文書目録5 京都府総合資料館	英雄待望論 鶴見祐輔	変り字読本 大阪毎日新聞学芸	カナの饗宴 大久保 泰	日本気象学史 荒川秀俊	マリローランサン全版画 求龍堂	ボードレエ素描集 佐藤明訳	ルーベンス生誕300記念F・ボードワン	成郷画集 森本東閣編	芹沢銈介作品集 限定	芳沢銈介作品集 限定	東山魁夷代表画集 限定品切	芋銭子画冊	水墨画 全三冊	日本新八景 彩色本版十枚映入	近江文化史 全一	印刷文明史 全六	日本書画骨董大事典 復刻全2	日本画家辞典 人名落款
五十嵐力	山田孝雄	新井出	猪野謙二	星野書店	理想社	晃文社	雄山閣	雄山閣	読売	大亜社	立命大出版	第一出版社	京都府総合資料館	講談社	河原	美術出版社	河出書房	求龍堂	昭森社	岩波	東閣書房	求龍堂	求龍堂	集英社	芸艸堂	毎日	川瀬巴水	近江史跡会	五月書房	歴史図書	大書堂	
白水社	白水社	星野書店	岩波	星野書店	理想社	晃文社	雄山閣	雄山閣	読売	大亜社	立命大出版	第一出版社	京都府総合資料館	講談社	河原	美術出版社	河出書房	求龍堂	昭森社	岩波	東閣書房	求龍堂	求龍堂	集英社	芸艸堂	毎日	川瀬巴水	近江史跡会	五月書房	歴史図書	大書堂	
昭13	昭16	昭29	昭44	昭45	昭49	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	昭64	昭65	昭66	昭67	昭68	昭69	昭70	昭71	昭72	昭73	昭74	昭75	昭76	昭77	昭78	昭79

このたび、永らく営業してまいりました伏見区より、下記左京区元田中へ移転いたしました。
お近くにお越しの際には是非お立寄り下さい。

TEL075(711)7148
市バス
京都駅より206
四条京阪より31
四条河原町より31・3
元田中駅下車
営業時間
11:00 ▶ 21:00p.m

(美術関係古書目録) 5号発行中 送料七〇円

34	小川未明童和研究	船木楢郎	宝文館	昭29	三、五〇〇
35	短歌論	渡辺順三	三笠書房	昭13	一、五〇〇
36	近代短歌の性格	小田泰三	萬里閣	昭15	二、〇〇〇
37	千代子への手紙	土居杏村	全国書房	昭21	二、五〇〇
38	新美南吉の手紙とその生涯	巽聖歌	大東出版	昭37	一、八〇〇
39	生々抄	上司小剣	大東出版	昭16	三、五〇〇
40	清貧に生きゝ初	上司小剣	千倉書房	昭15	四、〇〇〇
41	太宰治研究	亀井勝一郎編	新潮社	昭31	五、〇〇〇
42	あけぼの・初	新村 出	大八洲出版	昭22	一、〇〇〇
43	茂吉生説の講道	宇澤甚吾	東出版	昭37	一、〇〇〇
44	とらふぶ譚	中井英夫	平凡社	昭55	二、八〇〇
45	存在論	鬼頭英一	朝倉書店	昭18	二、五〇〇
46	神話哲学	磯部忠正	朝倉書店	昭18	三、五〇〇
47	哲学及哲学史研究	桑本嚴賢	岩波書店	昭11	三、〇〇〇
48	品性論	サムエル・スミイルス	内外出版	昭43	二、〇〇〇
49	精神学論考	木村秀吉	萬里閣	昭5	三、五〇〇



2

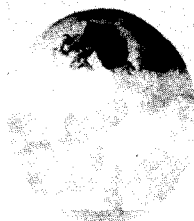


1

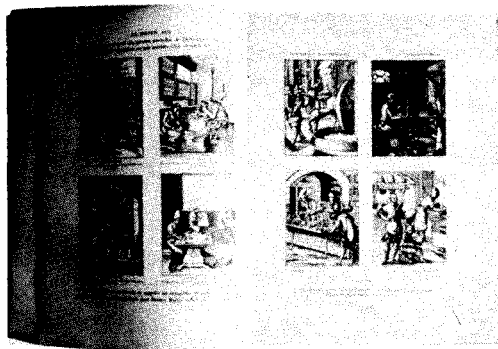
〒600

京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五)三四一八七九三
振替 京都 一七九三三八ALEXANDRE ASSMONE
BOUCHERALEXANDRE ASSMONE
BOUCHER

4



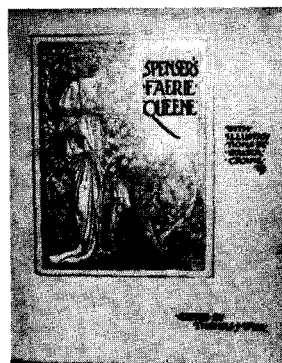
3



7



6

MAN RAY
Photographie

5

1. ダンテ「神曲」 G. ドレ、挿画「地獄篇」「煉獄と天国」 183+377頁、布装、ロンドン 1903 大型本 全2巻 ￥160,000
2. J.J. オーデュボン、「アメリカの鳥類」の為のオリジナル水彩画 431色図版 34.3×27.5 布製、マーブルケース入 N.Y.1966 極美 全2巻 ￥55,000
3. P. ラクロワ、F. セレ共著 「中世とルネッサンス」 473+394+418+375+364頁、多色石版画242頁 単色銅版画239頁、テキスト挿画637点 28.5×22 背及角革 バリ、1848~51 全5巻 ￥350,000
4. A. アナノフ、「F. ブーシェの全作品説明付目録」 415+366頁、図版多数、38×29、バリ、1966 ￥93,000
(他にカタログレゾネ関係多数在庫あり)
5. E. スペンサー「Faerie Queere」 W. クレーン挿画、装丁、全1546頁、ロンドン、1896 クレーン挿画多数 全6巻 ￥220,000
6. 「マンレイの写真」 ポンビドー美術館監修、253頁、345 写真図版、30×20、8、紙装 バリ、1981 ￥8,000
7. 「エゴンシーレのエロチックデッサン」 93頁、35プレート色図、5 図白黒、大型本、特装限定版 ￥33,000

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号
阪急古書のまち

(株) 臨川書店 大阪店

電話(〇六)三七四一・三〇〇
振替 京都 八〇〇番

営業時間 午前十一時～午後八時 定休日 毎週水曜日

30	マラルム覚書	田辺 元	昭36	八〇〇
29	リラダン 残酷物語	斎藤磯雄	昭23	三〇〇
28	トリビュラ・ボソメ	渡辺一夫	昭22	四〇〇
27	ボイドレール 研究	斎藤磯雄	昭46	二〇〇
26	ボイドレール 火前・赤裡の心	斎藤磯雄	昭49	二〇〇
25	ボイドレール 恵の華	内藤 濯	昭8	二〇〇
24	仏蘭西近代詩評釈	佐藤 朔	昭16	二〇〇
23	フランス誌法	鈴木信太郎	昭25	四〇〇
22	仏蘭西詩集	村上菊一郎	昭16	四〇〇
21	仏蘭西詩人の運命	平岡 清	昭14	四〇〇
20	ゾラとフランス・レアリスム	河内 昇	昭40	二〇〇
19	ゾラとフランス・レアリスム	山田珠樹	昭24	二〇〇
18	ゾラとフランス・レアリスム	渡辺一夫	昭14	二〇〇
17	ゴーチエ 女侠 世界狼奇全集	江川乱歩	昭5	四〇〇
16	フランス自然主義文学	辰野 隆	昭23	二〇〇
15	エミール・ゾラ研究 浪漫古典 第三輯	山田珠樹	昭9	二〇〇
14	ゴーチエ 女侠 世界狼奇全集	渡辺一夫	昭14	二〇〇
13	ゴーチエ 女侠 世界狼奇全集	江川乱歩	昭5	四〇〇
12	ゴーチエ 女侠 世界狼奇全集	辰野 隆	昭23	二〇〇
11	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	日夏耿之介	昭4	二〇〇
10	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
9	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
8	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
7	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
6	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
5	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
4	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
3	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
2	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇
1	ラクロ 危険なる短上 下は未刊	斎藤磯雄	昭16	二〇〇

31	ヴェレエヌ 女友達	青柳瑞穂	昭28	二〇〇
32	ランボオの手紙	高木佑一郎	昭12	二〇〇
33	ロートレアモン 文学的散步	高森忠義	昭46	二〇〇
34	グウルモン 哲学的散步	石川 湧	昭13	二〇〇
35	グウルモン 哲学的散步	石川 湧	昭13	二〇〇
36	デュラン 内的独白について	柳瀬尚紀	昭45	二〇〇
37	P・ルイス ビリチスの唄	川路柳虹	昭15	二〇〇
38	P・ルイス ビリチスの歌	鈴木信太郎	昭29	二〇〇
39	P・ルイス 不朽の恋	矢口 達	昭3	二〇〇
40	P・ルイス 女と人形	飯島 正	昭27	二〇〇
41	A・フランス 我が友の書	小林龍雄	昭12	二〇〇
42	A・フランス 白き石の上にて	平林初之輔	昭13	二〇〇
43	A・フランス ベンギンの島	水野成夫	昭46	二〇〇
44	ベリヤール マルセル・ブルーストの作品の構造	井上亮一	昭37	二〇〇
45	マルセル・ブルーストの作品の構造	井上亮一	昭37	二〇〇
46	ボアル・ヴァレリイ	前田雄二	昭15	二〇〇
47	ヴァレリイ ヴァレリイ	中島健蔵	昭15	二〇〇
48	評伝ボアル・ヴァレリイ	村松 剛	昭43	二〇〇
49	ジイド以後	中村喜久夫	昭8	二〇〇
50	創造の魔神ジイドとの対話	小松 清	昭22	二〇〇
51	テコブラ 寝台車のマドンナ	有賀宗太郎	昭5	二〇〇
52	フィリップ全集 三冊揃	新潮社	昭4	二〇〇
53	ロッセ 夢見るブルジョア娘	堀口大学	昭26	二〇〇
54	サンドラ 式場隆三郎	飯島 正	昭4	二〇〇
55	ウイニングダム・ルイス 悪魔主義 永松定	飯島 正	昭8	二〇〇
56	ブルドン他 シュレアリズム辞典	江原 順	昭33	二〇〇
57	ツアラ ダダ宣言	小海永二	昭34	二〇〇
58	ユニエ ダダ宣言	江原 順	昭34	二〇〇
59	アポリネール 偽救世主ランフイオン	祖父江 登	昭5	二〇〇
60	アポリネール 偽救世主ランフイオン	祖父江 登	昭5	二〇〇
61	詩人の光栄 フランス抵抗詩集 世界抵抗詩刊行会	安東次男	昭26	二〇〇
62	J・ボリラン 編 祖国は日没つくれる	中村真一郎	昭26	二〇〇
63	ラゲイゲ (世界現代詩叢書)	堀口大学	昭6	二〇〇
64	ヴィンセント 詩集 森の美女	三井ふたご	昭31	二〇〇
65	ヴィンセント 詩集 森の美女	三井ふたご	昭31	二〇〇
66	ヴィンセント 詩集 森の美女	三井ふたご	昭31	二〇〇
67	ヴィンセント 詩集 森の美女	三井ふたご	昭31	二〇〇
68	コクトオ詩集 (世界現代詩叢書)	堀口大学	昭26	二〇〇

69	天の手袋 (ラゲイゲの評伝)	江口 清	昭44	二〇〇
70	J・グリニオン 真夜中	河合 享	昭28	二〇〇
71	J・グリニオン モイラ	福永武彦	昭28	二〇〇
72	サン・ジョン・ペルス詩集 多田智満子	多田智満子	昭42	二〇〇
73	ミシヨオ フランス現代文学の思想的対立	春山行夫	昭12	二〇〇
74	ミシヨオ 試練・悪魔紋	小島俊明	昭39	二〇〇
75	ミシヨオ みじめな奇蹟	小海永二	昭44	二〇〇
76	ミシヨオ・ブリュムという男	小海永二	昭45	二〇〇
77	ジュラフ 不在の画家アンリ・ミシヨ	小海永二	昭41	二〇〇
78	バタイユ エロチシズム	室 澤介	昭34	二〇〇
79	ピエール・ルヴェルディ (セリ・ポエティック)	高橋彦明	昭44	二〇〇
80	イブ・ボンスフォア詩集	宮川 淳	昭40	二〇〇
81	マフ・ボン 第二の単独性	平井照敏	昭45	二〇〇
82	レリス 日常生活の中の聖なるもの	岡谷公二	昭47	二〇〇
83	巴里情痴伝	木村 毅	昭6	二〇〇
84	放心録	堀口九萬一	昭6	二〇〇
85	世界の思ひ出	堀口九萬一	昭17	二〇〇
86	辰野隆選集 五冊揃	改造社	昭24	二〇〇
87	辰野隆選集 五冊揃	辰野 隆	昭13	二〇〇
88	辰野隆選集 五冊揃	辰野 隆	昭13	二〇〇
89	辰野隆選集 五冊揃	辰野 隆	昭13	二〇〇
90	忘れ得ぬ人々 (続共)	辰野 隆	昭15	二〇〇
91	印象と追憶	家藏本	昭8	二〇〇
92	西山文雄遺稿集 城左門編	柳沢 健	昭4	二〇〇
93	巴里を語る	吉江喬清	昭4	二〇〇
94	片言まじりの仏蘭西行き	鈴木信太郎	昭11	二〇〇
95	文学附近	渡辺一夫	昭11	二〇〇
96	筆記幅	渡辺一夫	昭16	二〇〇
97	魚の歌	山田珠樹	昭14	二〇〇
98	東門雑筆	村松嘉津	昭22	二〇〇
99	帰ヨロツバ青鉛筆	衣木多喜男	昭22	二〇〇
100	新フランス文学	衣木多喜男	昭5	二〇〇
101	仏蘭西中世・語りもの 文芸の研究	佐藤輝夫	昭16	二〇〇
102	仏蘭西中世・語りもの 文芸の研究	佐藤輝夫	昭16	二〇〇
103	仏蘭西中世・語りもの 文芸の研究	佐藤輝夫	昭16	二〇〇
104	仏蘭西中世・語りもの 文芸の研究	佐藤輝夫	昭16	二〇〇

赤 尾 照 文 堂

電話(〇七五)二二一—一五八八
振替京都市五三三二二六

千 604 京都市中京区河原町通六角下ル

33	朱子	後藤俊瑞	昭18	二五〇〇
32	孟子通解	簡野道明	昭9	二五〇〇
31	孟子	重沢俊郎	昭58	二五〇〇
30	和刻本諸子大成⑪⑫	莊子他	昭51	二〇〇〇
29	列子と王道の政治経済	老莊思想研究序説	昭56	二〇〇〇
28	孔子とその人との伝説	クリール	昭36	二〇〇〇
27	孔子	田島道治	昭19	二〇〇〇
26	政教より観たる論語新釈	赤池 濃	昭5	二八〇〇
25	諸子概説	武内義雄	昭11	二八〇〇
24	経書の成立	平岡武夫	昭21	二八〇〇
23	随唐小説研究	内山知也	昭46	二五〇〇
22	宋時代儒学の倫理学的研究	木耳 命	昭48	二五〇〇
21	読書録	狩野直喜	昭55	二五〇〇
20	日本における中国文学Ⅰ・Ⅱ	神山喜一郎	昭40	二〇〇〇
19	趣味の支那叢談	上田恭輔	昭13	二〇〇〇
18	支那人の古典とその生活	吉川幸次郎	昭20	二〇〇〇
17	洛神の賦 中国文学論文と随筆	目加田誠	昭41	二〇〇〇
16	支那文学概論講話	鹽谷 温	昭10	二〇〇〇
15	中国文学論集	高橋和巳作品集	昭47	二〇〇〇
14	支那文学思想史	青木正児	昭18	二〇〇〇
13	中国の言語と文学	島居先生華甲記念	昭47	二〇〇〇
12	中国近世道教の研究	桂五十郎	昭58	二〇〇〇
11	漢籍解題	秋月観英	昭53	二〇〇〇
10	中国随筆索引	京都大学東洋史研究会	昭47	二〇〇〇
9	気のある思想	小野沢精一	昭53	二〇〇〇
8	中国近代政治思想史	中江丑吉	昭50	二〇〇〇
7	支那上代思想史研究	出石誠彦	昭22	二〇〇〇
6	中国における近代思想の挫折	島田虔次	昭53	二〇〇〇
5	支那思想の展開①	高田真治	昭19	二〇〇〇
4	支那心理思想史	黒田亮	昭24	二〇〇〇
3	中国の實在観の研究	木村英一	昭23	二〇〇〇
2	中国古史史学の発展	貝塚茂樹	昭21	二〇〇〇
1	中国学芸大辞典	近藤 奎	昭34	二〇〇〇

34	詩経	日加田誠	昭18	二、〇〇〇
35	和漢名詩類選評釈	簡野道明	昭43	二、〇〇〇
36	漢詩作法	草堂詩閣	昭10	七〇〇〇
37	詩韻通覧	細貝香塘	昭52	四、〇〇〇
38	李白研究	抒情の構造 松浦友久	昭14	二、〇〇〇
39	杜詩鑑賞	細貝香塘	昭40	二、〇〇〇
40	杜甫私記 第一巻	吉川幸次郎	昭52	二、〇〇〇
41	杜甫の研究	黒川洋一	昭24	五、〇〇〇
42	白楽天研究	堤 留吉	昭44	五、〇〇〇
43	陸放翁詩集	鈴木虎雄	昭25	六、〇〇〇
44	陸放翁詩集 四冊	鈴 木 忠	昭59	三、〇〇〇
45	錦繡段講義	仁枝 忠	昭17	三、〇〇〇
46	高青邱	土岐善麿	昭8	一、〇〇〇
47	中庸解義	簡野道明	昭56	一、〇〇〇
48	周易釈註 上下	森脇晴州	昭57	五、〇〇〇
49	絵本通俗三國志 全5巻	落合清彦校訂	昭58	五、〇〇〇
50	完訳十八史略上下	近藤出版	昭28	二、〇〇〇
51	魯迅選集 全13巻	小田嶺夫	昭31	二、〇〇〇
52	魯迅選集 全6巻	岩波書店	昭51	八、〇〇〇
53	原典中国近代思想史	中田勇次郎	昭18	二、〇〇〇
54	新中国の芸術家たち	木村浩	昭35	二、〇〇〇
55	考證餘事	杉本行夫	昭19	三、〇〇〇
56	秘伝花鏡	弘文堂	昭44	五、〇〇〇
57	易経講話 全5	公田連太郎	昭44	四、〇〇〇
58	吉川幸次郎全集④	論語・孔子⑤	昭44	四、〇〇〇
59	吉川幸次郎全集⑧	唐篇Ⅰ	昭44	四、〇〇〇
60	吉川幸次郎全集⑮	元篇①・明篇	昭44	六、〇〇〇
61	歴代詩選	中国古典文学大系 平凡社	昭35	一、〇〇〇
62	歷代隨筆	平凡社	昭35	一、〇〇〇
63	戯曲集	〃	昭35	一、〇〇〇
64	儒林外史	〃	昭35	一、〇〇〇
65	史記 上下	〃	昭35	三、〇〇〇
66	三國志義義 上下	〃	昭35	三、〇〇〇
67	水滸伝 上中下	〃	昭35	四、〇〇〇
68	金瓶梅 上中下	〃	昭35	四、〇〇〇
69	今古奇觀 上下	〃	昭35	三、〇〇〇
70	聊齋志異 上下	〃	昭35	三、〇〇〇
71	紅樓夢 上中下	〃	昭35	五、〇〇〇
72	兒女英雄伝 上下	〃	昭35	三、〇〇〇

73	官場現形記 上・下	中国古典文学大系 平凡社	昭35	三、〇〇〇
74	唐宋八家文 上・下	漢文大系 富山房	昭43	三、〇〇〇
75	十八史略他	〃	昭43	三、〇〇〇
76	史記列伝 上下	〃	昭44	四、〇〇〇
77	老子翼・莊子翼	〃	昭44	四、〇〇〇
78	史記列伝 上下	〃	昭44	四、〇〇〇
79	韓非子 上下	新釈漢文大系 明治書院	昭45	六、〇〇〇
80	孫子・呉子	〃	昭53	四、〇〇〇
81	老子・莊子(上)	〃	昭47	四、〇〇〇
82	スピノザの哲学	稲富栄次郎	昭14	六、〇〇〇
83	フイヒテの哲学	久保正夫	昭15	二、〇〇〇
84	フイヒテ知識学の概念並に第二序論	同朋社	昭9	三、〇〇〇
85	人生論	山本 鏡	昭12	五、〇〇〇
86	フイヒテ道徳論	フイヒテ 大島 豊	昭14	七、〇〇〇
87	フイヒテの生涯	陶山 務	昭18	八、〇〇〇
88	カントとマルブルク学派	M. ウント 菅合正貴	昭10	四、〇〇〇
89	ヘーゲル伝	フイッシャー 甘粕石介	昭23	六、〇〇〇
90	ヘーゲル美学	竹内敏雄	昭7	八、〇〇〇
91	国際ヘーゲル聯盟論叢 第一輯	河出書房	昭8	三、〇〇〇
92	ヘーゲル主義とマルクス主義	政経書院	昭4	二、〇〇〇
93	學術研究の方法論 シェリング	八倉 〃	昭13	七、〇〇〇
94	歴史と生の哲学 デイリタイ	藤平武雄	昭7	二、〇〇〇
95	デイルタイの哲学 勝部謙造	改造社	昭3	三、〇〇〇
96	否定判断論 ヴィンデルバンド	板重清喜	昭7	四、〇〇〇
97	フツセルの純粹現象学考案	板重清喜	昭7	四、〇〇〇
98	ハインリッヒ・リッケルト 現代ドイツ	板重清喜	昭7	四、〇〇〇
99	哲学内に於ける彼の態度	板重清喜	昭7	四、〇〇〇
100	哲学の概念	リッカート 坂崎保	昭17	四、〇〇〇
101	ケール博士小品集 全3巻	久保 務	昭8	一、〇〇〇
102	中世哲学思想史研究	岩下莊一	昭23	一、〇〇〇
103	中世精神史研究	吉澤義彦著 征矢野見雄	昭4	一、〇〇〇
104	聖アウグスチヌス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
105	聖アウグスチヌス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
106	聖アウグスチヌス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
107	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
108	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
109	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
110	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
111	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
112	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
113	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
114	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
115	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
116	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
117	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
118	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
119	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇
120	トマス・アクイナス研究	上智大学	昭30	八、〇〇〇

浄土宗学研究叢書

明治四三年から昭和四五年までに刊行された代表的な名著で、今日なお輝きを失わず、現代の研究者に参照・味読を促す不朽の著作に焦点をあて、特に現在入手困難なもの十冊を精選（「祖師篇」及び「宗論篇」）に分けて「浄土宗学研究叢書」全十冊とした。

宗史・宗論篇 全四冊 揃価三〇〇〇円

1 浄土宗史要 五五〇〇円

2 浄土教史 九五〇〇円

3 選択集大意・出雲宗要 九〇〇〇円

4 浄土宗史の研究 八〇〇〇円

浄土教古典叢書 全六冊

江藤徹英編

中世に述作された浄土教関係の諸本十一部二十巻を収めた「浄土宗学・真宗学」の基本資料。

1 一言芳談抄・祖師一口法語 4 続選択文義要鈔 解説・禿氏祐祥

2 光闡百首・今古独語・顕誓願解之訴状 5 古本漢語燈録 解説・山田文昭

3 法然上人伝記附一期物語 6 明義進・行集 解説・今岡達音

解説・望月信亨／妻木直良／江藤徹英

* A5判・袋綴・映入 揃一九〇〇〇円（不可）

国書刊行会

〒100 東京都豊島区巣鴨三二五-18 ☎03(917)8287
小社の書籍は注文制です。お近くの書店にお申し込み下さい。

御所物語

中川登史宏著
A5変型 1,200円

千年の歴史を保つ京都。その中心を成している御所をはじめ、桂離宮、修学院離宮等の知られざる部分を紹介。

京都と近代美術

橋本喜三著
A5 / 358頁 3,000円

40年に亘る美術ジャーナリストの目を通し明治から現代に至る京都の美術界全般を鳥瞰し、その消長と動向を綴った書。

木田安彦木版画

こんちきん

木田安彦 清水公照ほか推薦
A4 / 3,800円 特装25,000円

京の民家、日本の祭、くらしの行事、その他楽しいイラストを満載したユニークな版画・イラスト作品集。

ペン画集

嵯峨野百景

小西恒光画 高橋義生文
8,500円 原画付特装25,000円

千年もの歴史と風土が育まれ、京の一角に悠々と息づく嵯峨野を、繊麗なペン画で綴った生命感溢れる画集。

染織の美

隔月誌(奇数月15日刊)
A4変型 / 180頁 2,500円

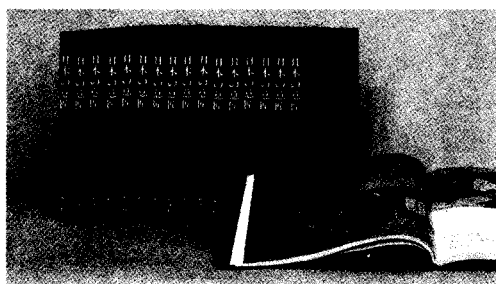
世界の染織をワイドにカラフルに集大成した唯一の専門雑誌／

●各号の特集

辻が花／更紗／有弾染／能装束／インドネシアの絨／紅型／正倉院裂と上代の染織／名物裂／日本の刺繍／世界の絞り／日本の絨／茶屋辻と夏衣裳／コブト裂／狂言の装束／振袖／型染／版染／歌舞伎の衣裳／冲縄の織物／桃山時代の染織／アンデスの染織／江戸の小袖／ヨーロッパプリント／平安・鎌倉・室町の染織／日本の革工芸／明治・大正の染織／メキシコの染織／インドの染織／グアテマラの染織／西方の絹／中国古代の染織

■伝統美術工芸のデザイン集大成

原色日本の意匠 [全16巻]



《全16巻》の内容(年4回発行)

- | | | |
|--------|----------|--------|
| ①源氏物語 | ⑦松・竹・梅 | ⑬春草・夏草 |
| ②秋草 | ⑧人 | ⑭獣・魚・鳥 |
| ③椿・牡丹 | ⑨鳥・蝶・虫 | ⑮唐草 |
| ④桜 | ⑩山水・風月 | ⑯吉祥 |
| ⑤藤・柳 | ⑪菊・紅葉 | |
| ⑥物語・能楽 | ⑫縞・格子・割付 | |

日本図書館協会選定図書

菊判樹型本(29×29cm) 表紙／クロス装箔押・上製箱入り
カラー／約150頁 モノクロ／約40頁 総頁数／各巻約190頁

好評発売中／(分冊可) 定価／各巻12,000円

京都書院

京都市中京区堀川通三条上ル
電話・075-841-9123代

保田與重郎・肥下恒夫・田中克己等編
小高根二郎・三浦常夫・伊東静雄

コギト

全16冊
付解説・索引

創刊号(昭和7年)
一四六号(昭和19年)終刊

『コギト』は、ドイツ浪漫派に傾倒しながらも、あくまで日本古典美の追求を主流とし、やがて日本浪漫派を生み出した極めて高踏な文芸誌であり、昭和十年代には文壇の主流の地位を得ていた。

これを読むに、当時の青年知識層の心情を反映し、単なる文芸史研究資料にとどまらず、現代史資料としても高く評価されるものである。

「コギト」誌上活躍した人々

萩原朔太郎	大山定太郎	神保光太郎	中原中也	立原道造	棟方志功	桑原武夫	生島遼一	中河與一	伊藤信吉	檀一雄
北原野矢	古川冬彦	岡村綱武	高村光太郎	岡本かの子	片山敏彦	倉田百三	草野平	三好達治	三井勝一	亀井一郎

体裁ⅡA5版・背つき極上クロス装 全146号を16冊に合本
第一回配本(創刊号)49号(合本8冊)Ⅱ6月25日
第二回配本50号~146号(合本8冊・別冊)Ⅱ9月20日
定価 一七〇、〇〇〇円(第一回配本 八五、〇〇〇円 第二回配本 八五、〇〇〇円)

臨川書店

本社 東京都左京区今出川通川端東入50M
東京支店 千代田区神田駿河台二一―一六
☎03-721-7111
☎03-293-5021

好評発売中 /

恵心僧都全集

比叡山専修院・叡山学院編(全五巻)

わが国浄土思想の根幹となり、鎌倉仏教の成立に多大の影響を及ぼした「往生要集」をはじめとして、多くの著述を残された恵心僧都の全業績を集大成した基本史料。再度の刊行を望む声にこたえ、仏教学上はもとより、歴史学・美術史学・文学などの研究に資するものとしてここに重版!

▼菊判・総頁三八〇〇頁・上製本クロス装/定価三八、〇〇〇円

名家伝記資料集成

森繁夫編・中野莊次補訂(全五巻)限定出版・残部僅少!
森氏の遺稿「先賢伝記資料」を中野氏が浄書・補訂、新たに索引を作成し、鎌倉末期から昭和二十年迄に没した国学者・漢学者・文人・高僧・芸術家・政治家・志士など、名家四万五千余名の伝記資料を網羅。第五巻には総索引のほか、別号・屋号・別姓・国名称呼を付して検索の便を図った。

▼A5判総頁五四〇〇頁/定価二二〇、〇〇〇円・分割価一三〇、〇〇〇円

都道府県教育史シリーズ

石川松太郎・津田秀夫監修(全四十七巻)

古代から明治前期までの通史の体裁をとりながら、各地域の特色ある教育・文化を紹介し、寺子屋・郷学校・私塾・藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業・教育などにふれる。そして各地域の教育・文化に貢献した人物をとりあげ、教育の事跡を明らかにしながら、それを歴史の全体像のなか位置づけ、その役割と意味をさぐっていく。付録として教育史年表・史料紹介・教育史地図なども収録。

▼四六判・平均二八〇頁/定価一、七〇〇円・二、〇〇〇円

既刊

京都府の教育史 衣笠安喜編著
愛知県の教育史 吉永昭著
大分県の教育史 鹿毛基生著

徳島県の教育史 三好朝一郎編著
福岡県の教育史 井上義巳著
愛媛県の教育史 影山昇著

神奈川県の教育史 石川松太郎編著
秋田県の教育史 戸田金一著

青森県の教育史 葛西富夫著

海原徹著

近世私塾の研究

広瀬淡窓、本居宣長、杉田玄白、シーボルト、緒方洪庵、吉田松陰ほかの近世の代表的な私塾の動態と人的交流を総合的かつ体系的に解明・分析し、その果たした役割と意義を探り、近代への胎動を追及した初の本格的な研究書。写真・図版多数収録。

▼A5判・六二〇頁/定価二二、〇〇〇円

思文閣出版

本社 京都市左京区田中関田町 2-7
〒606 (075) 751-1781

支社 東京都千代田区三崎町 2-20
〒101 (03) 263-6348